

アルシャード リプレイ

ブライトナイト 6

我が名は神

沢渡 祥子

はじめに

この本は、テーブルトークRPGのリプレイです。システムは「アルシャード」。

「テーブルトークRPG」及び「リプレイ」に関する説明は、ここでは省きます。今回は6人で遊んでおり、5人がそれぞれ自分の「キャラクター」を操作し、一人が物語の進行役（ゲームマスター、GM）を担っています。

「アルシャード」は、2002年にエンターブレインから出版された日本産のTRPGシステムです。ファンタジー世界での冒険を扱っており、2005年に改訂版「アルシャードff」が出版されています。

プレイヤーは「神々の力を受け継いだ英雄」となり、「奈落」という宇宙を蝕む負の勢力との戦いを繰り広げます。

TRPGの中でも比較的演出色が強いシステムで、プレイヤーには「状況に応じた的確な判断と対抗策」よりも、「その場に合う格好いい台詞とリアクション」が求められます。

GMの進め方も展開重視なところがあり、プレイヤーが何をやってもさらわれるヒロインはさらわれるし、つかまるシーンはつかまります。作戦内容にかかわらず突入するシーンでは突入しますし、成功も失敗も話の流れ優先です。

——そんな「お約束」をある意味楽しみながら自キャラの演出に励むのが、このシステムの特徴的なところかと。

そのため、これまでのTRPGリプレイとは少々毛色が違うものになっているかと思います。ご了承ください。

今回は公式キャンペーンシナリオ「ブライトナイト」を使用しています。

ファンタジー世界の英雄譚ですが、ロボットものの色合いが強く——はっきり言って、ガンダムから採用したとしか思えないネタが満載です。

では、今回のおはなしへ——。

登場人物紹介

シオン・シュタウク



「何かあったら僕が支えるから、もう少し頑張ってね」

「意思を持った者は人形って言わない！」

男／人間／15歳 主人公・人型甲冑アームドギアの乗り手

肌／黄 髪／黒 瞳／黒 身長：163cm

シャードの形：曲玉型のイヤリング

【レベルとライフパス】

パンツァーリッター2/ファイター5

特徴：神の恩恵・美形（異性の反応がきわめてよい）

クエスト：運命への反逆

【プロフィール】

セッション開始時点ではまだクエストになっていなかった島の少年。息子への関心の薄い発明家の父親と、修理したヴァルキリーと住んでいた。

父の発明した『アームドギア』に乗り込み、プリムローズと協力して帝国と戦う主人公。

クリス



「ごめん、もう少しこのまま……ちよっとうささせていて」

「私は、力で支配するようなことはしたくはないんです」

女／人間／16歳 ヒロイン・シャードの巫女

瞳／青 髪／金 肌／肌 身長：160cm

シャードの形：緑の八角形、ケインに付属

【レベルとライフパス】

オラクル4 / ホワイトメイジ2 / ブラックマジシャン1

特徴 : 美形 (異性の反応がきわめてよい)

クエスト : 失われた記憶 (出自 / 喪失)

【プロフィール】

本キャンペーンのヒロイン。出自ライフパスはもちろん「神の恩寵 (特徴: 美人)」。記憶を失っている。シャードの意思を形で受け取れる特殊な才能を持つ巫女。

レキ・ストランド



「そんなもの、王女に当てさせるわけにはいかん！」

「私はあなたの剣となり、帝国と戦うことにしましょう」

男 / 人間 / 33歳 復興を誓う王国の元騎士

肌 / 焦茶 髪 / 黒 肌 / 肌色 身長: 185cm

シャードの形: 虹色の八角柱のリング

【レベルとライフパス】

サムライ2 / ファイター4 / ハンター1

特徴 : 質実剛健 (耐久力+2)

クエスト : 王女の探求

【プロフィール】

十数年前に滅びたウェストリ王国に仕えていた騎士。祖国の復興のため、反乱組織プリムローズに身を投じる。行方不明の王女の行方を追っている。帝国将校“灼熱の”アインを仇と狙っている。

フリーデ



「シオン様は.....わたしたちにとって闇を払う光なのだから」

「わたしは機械人形。生命の輪からは外れた存在です」

女性型 / ヴァルキリー / 年齢不明 戦うお手伝いさん

肌 / 白 髪 / 銀 瞳 / 水色 身長: 164センチ

シャードの形：水色の涙滴型

【レベルとライフパス】

ヴァルキリー4 /ハンター2 /ホワイトメイジ1

特徴：第六感（セッション中に1回、【知覚】判定の振り直し）

クエスト：マーカスへの恩返し

コネクション：マーカス・シュタウク（主人）

【プロフィール】

2年前に主人公の父親マーカスによって修理されたヴァルキリー。記憶が欠損しており、再稼働する前のことを覚えていない。マーカスが亡くなった今はシオンを主として仕えている。

ライゼル・シューナー



「大丈夫、みんなで帰ってくるからー」

「こういう時は男に華を持たせるのが女性というもんだろうが！」

男 / 人間 / 25歳 さすらいの行商人

肌 / ? 髪 / ? 瞳 / ? 身長：160cm

シャードの形：黄色の六角柱、武器に付属

【レベルとライフパス】

エージェント1 / ヴァグランツ5

特徴：探索者

クエスト：契約の執行（出自：売買）

コネクション：パトリック・ウォン

【プロフィール】

新しく加わったGM社のエージェント。愛犬・クーちゃん（チワワ）と共に現れる。自分はないにもしないのに周囲の状況がどんどん好転していく、という特技(?)を持つ癒し系人物。

お料理の腕は一級。

SCENE 1 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（全員登場）

GM : 君たちは今、ミーティアの腹の中にいます。

シオン : え、脱出していなかったんだっけ。

GM : してないよ。

フリーデ : 前回のおさらい。ダーモットは、エイリアスのクリスと共に奥に行ってしまいました。しかし救出したソフィーが『私、彼の力を読んじゃったんです、彼の行く場所を知っています』と言ったので、彼女の案内でダーモットを追ってミーティアの奥に行くことになりました。果たしてパーティの運命やいかに！？ ——OK？

シオン : OKOK。

ライゼル : (リプレイを出しつつ) ここに前回のリプレイが。シオンの『行こう。僕らの希望を取り戻しに！』という青臭いセリフで終わっております。

シオン : 俺そんなセリフ言った？ 作ってない？

リプレイ担当 : 作ってない作ってない。何なら着メロに加工して送りますよ。(笑)

◇レキ・ストランド (サムライ2 / ファイター4 / ハンター1)

33歳・人間・男

コネクション：ハンス・ウィルマー (関係：同志)

元ウェストリ騎士。王国の正統な後継者であるクリスに騎士として仕える宣言をした。

GM : プリムローズの基地から連絡が入ります。帝国が結構な軍を率いて基地奪還に動き出した、と。

レキ : 「そ、それは耐えられそうなのか？」と。

GM : 「それは……」と語尾を濁らせます。増援を要請していますのでしばらくは保ちこたえることはできるでしょうが、あなた達がダーモットを倒してから戻っても戦端は開かれてしまっているでしょう。

シオン : 速攻で行ってミーティアを叩き壊してくる方が早いかな。

GM : ダーモットは起動キーである2つの指輪と王族の血を揃えたので、ミーティアを起動させるのは時間の問題かと。

ライゼル : (のほほんど) いいじゃないか、起動したぐらい。

GM : 起動したくらいはね。ただ、起動させた人間が奈落の存在だということがクリスの予知によってわかっています。

シオン : 悩むくらいだったら、さっさとダーモット王子を追うのが正しいのではないかと思われる今日この頃。

レキ : 「前線が攻撃を受ける可能性が高いが、我々はこのまま行く。ミーティアの起動を防ぐのが最優先だ」

GM : そうすると通信士は「レキさん、ミーティアをよろしくお願いします」

レキ : 「わかった。できれば私達が帰るまでは持ち堪えてくれ。よろしく頼む」

GM : 「任せてください。帰る場所は失わせません！」

シオン : ……一介の名もないキャラクターのくせに何てセリフを言いやがる。(笑)

SCENE 2 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー

◇ライゼル・シューナー（エージェント1／ヴァグランツ5）25歳・人間・男
コネクション：パトリック・ウォン（関係：ビジネス）
補給物資として派遣されたゼネラルマテリアル社職員。プリムローズ員のミカにからかわれつつも、パーティのサポート役としてがんばっている。

- GM : レキが電話をしている横で、あなたは状況をパトリック・ウォンに報告します。
- ライゼル : 「えー、パトリック・ウォン。状況はかなり切迫しています。私はいつ帰れるの？」
- GM : パトリック・ウォンは「いつ帰れるのって言われてもさ、状況がわかんないんだけど。どうなの？」
- ライゼル : 「ダーモットが指輪を盗み、エイリアスを使って古代兵器を起動させる、まさにその一歩手前。離れたところではプリムローズが帝国軍の一斉攻撃を受けそうで、ちょっとヤバげな感じ」
- GM : 「へえ。つまりあれだね、ダーモット王子であろうと思われる人物が第一王位継承権を持つ王女のエイリアスを連れ、しかも起動キーである指輪を持って遺産である超兵器のミーティアを起動させようとしていると」
- ライゼル : 「そうそう」
- GM : 「それと同時に、君たちがこの前奪い返したばかりの前線基地に帝国軍が迫っていると」
- ライゼル : 「そういうことでございます」
- フリーデ :パトリック・ウォン、絶対に事前情報を手に入れていたに違いない。（笑）
- シオン : ってことは今のこれは読者への説明セリフ？
- ライゼル : 「次の手は打ってありますよね？」
- GM : 「俺が表立って動くときプリムローズとの関係がバレちゃうでしょ。仕事は彼にやってもらっているけど、少なくともミーティアには手は出せないよ」
- クリス : ジールさん、暗躍しているらしい。
- ライゼル : 「わかりました、ではみんなに頑張ってもらいます」
- GM : 「で、君にこれからの任務を与えるよ」
- ライゼル : 「ラジャー」
- GM : 「帝国はプリムローズに任せて、君は世界を救ってね。じゃっ」（笑）
- ライゼル : 「.....それはどういう意味ですか！？ ウォン、ウォン！」（笑）
- シオン : ツーツーツー。
- フリーデ : 丸投げって、ジールさんの技かと思ったらパトリック・ウォンも使うんですね。GM社の伝統なのかな。
- クリス : 要は当分帰ってくるなと。
- シオン : ライゼル、可哀想だな。就職先変えれば？
- ライゼル : そうだね。どんなところでも生きてやる。ヴァグランツを舐めるなよー！
- GM : ミカが「期待されているんだよ？」と。
- ライゼル : ミカに向かって言うよ。「僕が乗ってきた飛行機には、片道ぶんの燃料しか入ってなかったんだ.....」
- GM : そうそう、君にクエストを与えよう。――『世界を救う』（笑）
- ライゼル : 待てマスター、それヒーローとかヒロインのクエストじゃないのか？
- GM : 大丈夫、このシナリオをクリアすれば自動的にできたことになるから。
- クリス : 努力をすればいい。結果じゃなくて経過が大事なゲームだから。
- フリーデ :実も蓋もないなあ.....。（笑）

SCENE 3 シーンプレイヤー：フリーデ

◇フリーデ（ヴァルキリー4／ハンター2／ホワイトメイジ1）

ヴァルキリー・女性型・製造年不明

記憶喪失ヴァルキリー。遺跡ミーティアの制御プログラムだが、OSはMEたんらしい。

GM : 同型機のレーネから連絡が入ります。彼女は、あなたが感じ取ることができないミーティアの内部について調べていたようです。

フリーデ : はい。

GM : 「ミーティアはまだ起動していませんが、奈落によって内部が浸食されているようです」と重たい口調で。

フリーデ : 「現状の浸食パーセンテージは？」

GM : 「まだ半分までできていませんが、かなりの浸食速度です」

シオン : ミーティアの三原則はメイドのマジ、看護婦のマジ、巫女のマジ。全てが浸食されると最強の萌えキャラに。（by『新世紀エヴァンゲリオン』MAGIシステム）

レキ : その3つがせめぎ合っていると。

クリス : あ、看護婦は南北戦争時代のも。（←こだわりがあるらしい）

フリーデ : 「こちらから浸食を妨害する方法は？ 今ここには子機端末がありクリスもいますが、何かできることはないのでしょうか」

GM : 「そこからでは無理でしょう」

フリーデ : 「わかりました。ならば中央制御室を目指します。現在地から中央制御室までの到達可能経路と周辺データをこちらに送って下さい」

GM : じゃ、そこで君の元にデータがきます。

フリーデ : 必要なデータを全て送ってもらってから、回線を切って一息つきます。

GM : そこでシーンを切ります。あなたのクエストは『ミーティアを守る』

シオン : それ厳しいね。壊した場合はどうなるんだろう？

フリーデ : 大丈夫。ミーティアの心臓部を守るとか、自我を守るとか奈落から守るとかでもきくとOK。（笑）

SCENE 4 シーンプレイヤー：シオン

◇シオン・シュタウク（パンツァーリッター2／ファイター5）

15歳・人間・男

本キャンペーンの主人公。父の遺作となったアームドギアに乗り込み、反帝国活動中。

- GM : 君は今アームドギアから降りていますが、そこにソフィーさんが近づいてきます。
- クリス : ぎらーんっ！（笑）
- ライゼル : クリスがフリッカージャブの体勢に入った！（by『はじめの一步』）
- クリス : いやいやいや。とりあえず、今回は私は出ませんよ。
- GM : ソフィーは「すいません。私が捕まったために、あなた達の迷惑になって……」と今にも泣きそうな表情で。
- クリス : まったくなー。（笑）
- シオン : 「そんなに気にしないでもいいよ。起こってしまったことは止められないから、これから起こることを止めよう」
- GM : ソフィーは「こちらです」と案内をしようとしませんが、足元が覚束ないようです。あと、ダーモットの記憶は探ったんですが、位置は明確ではないようですね。
- シオン : 「この中のことだからフリーデが知っているかもしれない。フリーデと話そうか」
- フリーデ : （ころころ）出てきますー。「ここから中央制御室までの経路は複数あります。ソフィー・ウィルマー、貴方の示す経路はどちらの方向ですか？」
- GM : ソフィーは中央制御室にまっすぐ向かっている道を指しますね。
- フリーデ : 「ここならば最短経路に間違いありません。わたしの記録にも合致します。先導しますから異なっておりましてらお教え下さい」
- シオン : 「僕、出る前に機体を見てくるよ」
- レキ : さっきの戦闘でダメージをくらっているはず。
- GM : 機体に戻ると、壊れていた部分が修復されています。（笑）
- シオン : あれ。見たことのない部品が組み込まれている。あ、よく見るとあっちこっちの機体から何かもぎ取ったような跡が！ 何だろ、このコードの切れ端。（笑）
- GM : そんなものはねえよ。
- クリス : 機体の中にパパの小人さんが入っていて、トンテンカンと。
- フリーデ : 「シオン様。機体が治るからといって、くれぐれも無理はなさらないでください」
- シオン : 「そうだね……」でも前はフリーデが見捨てたのにー。（笑）
- GM : そうすると、アームドギアの脚部から白い蒸気が吹き上げ、動きが停止します。
- レキ : 「シオン、どうした？ アームドギアが止まったぞ」
- シオン : 「ま、父さんの作った機体だから！ 大事なところで止まるのはよくあることだし。ははははっ。……はーっ（溜息）」
- GM : シオン、【理知】チェックしてくれ。楽だから8くらい。
- シオン : （ころころ）失敗した。
- GM : なにい！？ 8って簡単だぞ！
- シオン : 黙れ！ 【理知】低いんだ。2D6で6以上出さないといけないんだぞー。
- ライゼル : 《声援》（ヴァグランツLv5特技。対象の判定の達成値を+1D6）してやろうか？
- シオン : 《声援》くれ、これで1D6増えるんだよね。「ライゼルさん、ちょっとここお願いしまーす」
- ライゼル : 「はーい」
- クリス : ……。 （ダイスを振ろうとするシオンに何かの念を送っている）
- シオン : ーいや、あのね、クリスの中の人の《声援》はいらないから。（笑）
- レキ : むしろそれは呪い。

シオン : (ころころ) 成功。でも《声援》なかったら失敗だよー。

GM : コクピットの、勾玉をはめ込むところの光がなくなっています。そして音声がかかります。「これが起動したということは勾玉を使ったな。勾玉はオーバーストの起動キーだが、1回使うと3分ほど動けなくなる。そのつもりで」(笑)

シオン : とーさーん……。

ライゼル : シオン君。……頑張ろうな。(肩ぼん)

フリーデ : 「なぜマスターはブースターが起動すると同時にこの音声を流さなかったのでしょうか？何か考えがあったに違いありません」(笑)

シオン : 「と、父さんのことだからきっとこう考えたんだよ。息子には試練が重要だって」

クリス : 棒読みだ。

フリーデ : 「申し訳ありません。わたしがもっとこれについてよく聞いていれば」

シオン : 「フリーデのせいじゃないよ。というか、聞いても無駄だと思う」

フリーデ : 「はい。それはわかってはいるのですが……」(笑)

GM : アームドギアが動くようになるまで3分待つくらいだったら、ここに置いて後で《コーリング》(パンツァーリッター1Lv特技。自分のパンツァーを呼ぶ)した方が早いかな。

シオン : 勾玉だけ外して耳につけて、アームドギアは置いていこ。

レキ : 「シオン、先を急ぐぞ」

シオン : 「は一、そーっすね」いいよもう。……世界なんかよりさー。

ライゼル : 僕たちを誰か救って。(笑)

GM : そんなあなた達をこづいてミカが言います「行かなきゃいけないでしょ」

シオン : 「安定した老後ってどうやれば手に入るんだろうね……。とりあえずライゼル。平和な未来のために世界を残そうな」

ライゼル : 「頑張ろうね。安全な島をひとつくらいは確保しようね」

レキ : ひとつだけか。

シオン : だって機体がどんどん愉快的なことに……。

GM : 愉快にしているのはお前だろう！

シオン : だって使うと3分間止まるんでしょう。こんなの最初に教えろよー！(笑)

SCENE 5 シーンプレイヤー：クリス

◇クリス（オラクル4／ホワイトメイジ2／ブラックマジシャン1）

16歳・人間・女

ウェストリ王国姫君。目指すは正当派の宮崎ヒロイン……だったよね、確か……あれ？

GM : あなたには自分と同じ顔をしたエイリアスの存在や、ミーティアー—自分の継承すべきもの—が悪用されて世界が滅ぶのではないか、ということなどで今は余裕がありませんね。

クリス : いっぱいっばいですよ。どうしようかね。

ライゼル : クーが登場しますよ。（ころころ）11で、ファミリアだけ登場。慰めるように鼻先で足の辺りを押します。

クリス : 「あら……」と犬を抱き上げて「慰めてくれるの？」って感じで。

GM : 駄目だ、慰めるべき人物が慰めてねえ。（笑）

フリーデ : ソフィーみたいに『私のせいでごめんなさい』って言っていれば、シオンは『そんなことないよ』って慰めてくれるよ。あの娘いつもあざといし。（笑）

シオン : 確かにソフィーは男がやっているからあざといさ！ 『こう言っておけばとりあえず同情引けるだろう』ってということ言うけどさ！（笑）

GM : ツボは心得ているけどさー。

フリーデ : え、そのせいなの？

GM : でもソフィーだって可愛そうなんだよ！ 友達に恵まれず、いつの間にか反乱軍に組み込まれて、しかもリーダーが自分の兄だから抜けるに抜けられず。

シオン : 今のところ、ソフィーの方がヒロインレベルとしては上。

クリス : （びっくり）でも、ソフィーさんは反乱軍が一番大事なようだしー。（笑）

シオン : でも、クリスさんは王国が一番大事なようだし。（笑）

GM : ここはマジバトル展開？（笑）

クリス : そういやソフィーはどうしているの？

GM : ソフィーはフリーデに行き先を説明している。

フリーデ : 『私のせいでごめんなさい』って、シオンに言いながらね。（笑）

クリス : ほおーう（びっくり）。

GM : そんなことはして……ましたね。（笑）

クリス : おっけー。じゃ、ソフィーに向かって「ソフィーさん、あなたのせいじゃないわ。気にしないで」と。

シオン : しゅたーん、しゅたーん。（フリッカージャブ（by『はじめの一步』）の体勢で）

GM : 「いつまでも慰められてばかりではられませんね。すいません。皆さんにご迷惑をかけて」

クリス : 「いえ、あなたは十分に役に立ってくださるじゃないの」

GM : 「申し訳ないだけじゃない。私、あなた達のような年の近い人と友達になれる機会が最近なかったんです」

クリス : 「そうね、私もシオン君やソフィーさんが本当に初めての同い年の友達。私もソフィーさんと知り合えて嬉しいの」（火花ばちばち）

シオン : ……俺、なんでこんな真ん中にいないといけないんだ？

レキ : レフェリーがちゃんとしないと試合が進みませんから。

シオン : レフェリーはフリーデがやっているから、俺トロフィー？（笑）

クリス : 「ソフィーさんはお兄さんのために一生懸命なのね？」

GM : 「最初はそうだったかもしれないけど、それだけじゃないの」（笑）

フリーデ : クリスのフリッカージャブをソフィーがかいくぐっていきますよ。（笑）

クリス : 「私も最初は自分の失われた記憶を探すだけだったの。でも、そんな時に私の前に現れたのがシオン君だったの」

シオン : クリス、タイミング変えました。

レキ : ソフィーの動きをよく見た行動です。

クリス : 「私……シオン君がいなければ、何もわけもわからないまま帝国に利用されていたかもしれない」

フリーデ : クリスはワンツーで距離を測っています。

シオン : いや……クリスはまだ何か狙っていますね。グローブを立てて誘っているようです。

クリス : 「思えばシオン君に会ったあの日から、全ての運命が廻りだしたのかもしれない」

GM : 「私も、彼には精神的な助けをもらいました。私が肩の力を張って背伸びをしていた頃、彼は対等に扱ってくれた」

クリス : 「そういえば、シオン君言った。艦内で初めて会った友達だって」 (笑)

シオン : クリス、ソフィーのブローにいいカウンターを合わせます。(笑)

GM : ソフィーは「それは嬉しい。私は友達や私の兄のためにもこれからミーティアを阻止しなければならぬ。頑張りましょう」

クリス : 「私も……ダーモットを止めてみせる。一緒に頑張りましょうね」

GM : ソフィーは「この戦いが終わったらいろいろお話ししましょ？」と。(笑)

フリーデ : ソフィーも負けていませんね。ですがここで1R目終了のようです。

シオン : アナウンサー席からは、このラウンドはクリス優位です。しかしソフィーも致命打はくらっていませんから、次からは足を使ってきますよ。(笑)

フリーデ : 勝負の行方はまだまだわかりませんね！

GM : あの、そんなところで盛り上がりながらも……。 (笑)

クリス : 調子が戻ってきたぞー！ (笑)

レキ : 相手が強いほど燃え上がるようです。

GM : というところでクリスにクエストを渡します。『ミーティアを奈落から守る』。

SCENE 1 マスターシーン

- GM : ミーティアの内部、中央制御室に続く扉の前に一人の男と一人の女性がいます。ダーモットとクリスのエイリアスです。
- レキ : エイリアスって、もっと言いやすい名前はないかな。
- クリス : クリス・ダッシュ？
- GM : 名前はクリス・キルシュといいます。アインがかつてアイゼン・キルシュと名乗っていたのと同じです。キルシュというのは王家の名前なので、クリスも本来クリス・キルシュなわけですが。
- シオン : 『私は34番目のキルシュ……』
- フリーデ : そこまでいるとオリジナルの意義って何、ってことになるけど。(笑)
- GM : 扉の前でダーモットは女性に「やれ」と言います。彼女は無言で頷いて、指輪をはめた両手を扉につけます。光の線のようなものが扉を走り、開錠がなされます。
- ダーモットはいやらしい笑みを浮かべて言います。「いいぞ……全てはあの日以来だ。10年ぶりのこの時を待っていた！ さあ行くぞ。我が手に全てを収めるためにな」と、女性と一緒に奥に入っていきます。扉が閉まる間にダーモットの声が響きます。「今宵、世の元にミーティアが……世界が掌握されるのだ！ ははははは！」

SCENE 2 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（全員登場）

GM : あなた達は最短ルートを進みますが、しばらく進むと遙か前方に赤いバーサーカーが、数がわからないくらい大量に。

レキ : え。

ライゼル : うーん。これは見なかったことに。

レキ : 「フリーデ、何とかならないのか」って感じで言いますけど。

フリーデ : 「レキ、申し訳ありませんがあのバーサーカーは既に奈落に侵されています。わたしやレーネの手で何とかできるものではありません」

レキ : 臨戦態勢を取りますよ。「ソフィーさん、後ろに下がってください」

ライゼル : さあ、数を決めよう。2d6×2d6だ。

GM : (ころころ) 54体が5体1組で11グループ。レベルは5Lvです。

シオン : 本当にそんなに出して……殺すぞ！

GM : わらわらと寄ってきますね。

■戦闘I VS バーサーカー 5Lv相当モブ×11グループ■

[行動順] 行動値12 クリス、シオン

行動値11 フリーデ、レキ

行動値7 ライゼル

行動値0 バーサーカー

■戦闘II VS バーサーカー 6Lv相当モブ×6グループ■

[行動順] 行動値12 クリス、シオン

行動値11 フリーデ、レキ

行動値7 ライゼル

行動値0 バーサーカー

1戦闘目の敵からは1R目で倒しきることができず、11グループの波状攻撃を受けました。レキとフリーデの《カバーリング》、ライゼルの新特技《自己犠牲》でダメージを分散させ、何とかしのぎます。

しかしレキはブレイク、フリーデもブレイク後のHPが1点に。

2戦目は1戦目で受けたダメージを魔法で回復している時に間をおかず発生した戦闘です。

この時は命中がクリティカルでうまく決まったこともあり、少ない被害で勝利。

ただ、この2戦闘でMPもHPも激減してしまいました。ポーションを飲みつつ先に進みます。

シオン : 「切り拓いた！ 急いで行こう」

フリーデ : 「はい」

SCENE 3 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（全員登場）

- GM : 行く先に扉があります。クリスとフリーデは11で【理知】チェックをお願いします。
- フリーデ : (ころころ) 10。失敗
- クリス : (ころころ.....失敗) 「この扉は何かあるわ！」——《フリッグの予知》（オラクル1Lv特技。1セッションに3回までGMに質問できる）いきます！（笑）
- GM : この扉は王族の血と指輪がないと開錠できませんが、一旦開錠した後なら王族の血だけで開きます。
- レキ : レキは扉の前で頑張っています。「開かない！」
- クリス : 「レキさん、ちょっと待ってください」と、扉に手を当てます。
- GM : そうすると、手の周りにはぱっと光が走って扉が開きます。バーサーカーは背後から迫っていて、今度は相手のできるような数じゃありません。
- ライゼル : 応援を連れてきた銭形刑事みたいだな。
- クリス : 「皆様、早く入ってください！」
- GM : 扉に一番近いのはクリスとレキとフリーデ？
- シオン : ミカとライゼルが真ん中で、俺が一番後ろで「も、もう保たない.....！」
- GM : じゃ、【反射】チェックしてもらいましょうか。一番前にいる人達は6でいいや。ソフィーさんは数に入れません。真ん中にいるライゼルは11、シオンは13で。
- シオン : マスター、《コーリング》（パンツァーリッター1Lv特技。自分のパンツァーを呼ぶ）でジャンプ。
- GM : わかりました。後ろからバーサーカーをはね飛ばしながら白い機体がやってきて、乗り込んだシオンはそのまま扉の中に入れます。残ったライゼル、判定してください。
- ライゼル : うーんとね、どのみち平目で8を出さなきゃいけないんだよ。
- クリス : 厳しいね。何かそれにプラスできるものはないのかなあ。
- フリーデ : 自分で自分は助けられないんだね。
- ライゼル : そうなんだよ。おまけにミカというお荷物があるんだ。
- GM : じゃ、こういう判定にしましょうか。ミカだけ、あるいは自分だけ逃げるなら、2回判定をして片方の目標値が7、もう片方を12にします。片方が残ってもう片方を逃がす、みたいな。
- ライゼル : わかりました。——ミカの背中を押します。
- シオン : 男前だ！ ゲーム的にはミカを置いて自分が行かなきゃいけないはずなのに。
- フリーデ : わたしだったら迷わずミカに死んでもらったね。縁を切るにはちょうどいい頃合いだし。（笑）
- クリス : うわ、断言してるよこの人。
- GM : では、まずは7で判定をしてください。
- ライゼル : (ころころ) 13.....。（笑）
- レキ : 無駄に高い。（笑）
- GM : 次に自分の判定をしてください。12以上で。
- ライゼル : 9以上！（ころころ.....失敗）
- クリス : ぜんぜん駄目。
- GM : 君はミカの背中を押して扉の向こうに行かせますが、ミカは「あんたも一緒だよ！」と言います。
- クリス : ここで何か一言！
- ライゼル : じゃ、通信機をそっちに投げよう。「使い方はレキさんにでも聞いてくれ」と言いながら。
- GM : そうすると、ミカは戻ってきます。「何かっこつけているんだよ、男がそんなところ

で死んだらただの犬死にじゃないか！」と。――そんなことをしているうちにバーサーカーが来ますね。

シオン : そんなことされたら……そんなことされたら！

フリーデ : まさに犬死にじゃん。

ライゼル : ……何かねえかなあ。

GM : 何か言ったら状況変わるかもよ？

レキ : ここはライゼルが演出で切り抜けないとなりません。シリアスパートで！

フリーデ : ライゼルさんがギャグじゃなくなるかもしれない。美味しい瞬間ですよ。

ライゼル : ……今の状況を教えてくれ。

GM : 扉はまだ開いてます、でも閉まりかけています。君たちの目の前にバーサーカーがいます。で、戦闘できる人はみんな行きました。

レキ : 「ライゼル、ミカ、早く来い！」

シオン : ここで俺はどうするべきか。《ヘルモード》（パンツァーリッターの加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカルに出来る）使ってかささらってくるのが一番正しいかなとは思ってます。が。

フリーデ : ここはライゼルさんの見せ場ですし。

シオン : そう。ここで俺が取るとライゼルの意味ないじゃないですか。

フリーデ : ここは『……バカだなあv』とか言いながらミカをぎゅっと抱きしめて、そのままバーサーカーに飲み込まれて2人でフェイドアウト。（笑）

シオン : 『バカだな、こんなところに来なくてよかったのに。死ぬのは僕一人でよかったんだよ……』って？（笑）

フリーデ : そうそうそう。で、そこで扉がボタンと閉まるの。扉のこちら側ではクリスが泣き崩れ、それをシオンが慰める。（笑）

クリス : おお！

シオン : で、閉じた扉からがつんがつんと音がして。

レキ : そういうダークシリアスは……。 （笑）

ライゼル : 「エージェントを舐めるな。早くみんなのところに行け」

GM : 「あんたはそういうピンチになることばかり。さっきだって私とクーを先に行かせようとしたくせに！」

シオン : やべっ。ライゼルとミカのフラグが立ってしまいました！（笑）

ライゼル : 「こういう時は男に華を持たせるのが女性というもんだろうが。とっとと行きやがれ！」

クリス : お、ライゼルがかっこよくなった！

ライゼル : 今ライゼル君、余裕がないもんで。

GM : 「嫌だ、あんたの側を離れたくない！」とミカが言うと……ご都合主義で申し訳ないですが、ミカのシャードが光り、クエスターとして覚醒しました。信じられない速度で、君とミカは扉の内側に到着しています。

フリーデ : ミカ、パンツァーリッター！？

GM : 《ヘルモード》（パンツァーリッターの加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカルに出来る）です。

クリス : わーい、加護増えたぞー。

SCENE 4 シーンプレイヤー：フリーデ（全員登場）

GM : バーサーカーの群れを抜け、負傷しながらも扉の向こう側に到着しました。

シオン : そして新たに生まれた愛！

GM : その時点でレーネから通信が入ります。

フリーデ : はい。「何事ですか？」

GM : 「予想通り、こちら側は帝国軍の襲撃を受けています」

レキ : 襲撃が始まったー。

GM : 「現在交戦状態にあり、グランブリュで支援していますが動力部に被弾し、飛行不可能な状態です」

レキ : あ、グランブリュはもう向こうに行っていたのか。

GM : 「戦闘が早く終結してもそちらに救援に行くことはできなくなりました」――攻撃能力はまだ保有していますが、飛行能力を失ったと。

フリーデ : 「わかりました。こちらは現在中央管制室の一步手前まで来たところです。できるだけ早く終わらせそちらに向かいますので今暫く持ち堪えてください」――で、みんなを向いて「グランブリュが被弾しました。こちらに何があっても来ることはできません。また、向こうの戦いは激化しているようです」

GM : そんなことをしていると、目の前にまた扉があります。

クリス : 照合ー。びーっ。

GM : 扉が開きます。今度はバーサーカーはいないようです。

SCENE 5 シーンプレイヤー：シオン（全員登場）

- GM : 次の扉が開きます。暗闇でしたが、しばらくすると室内に光が差します。そこは広いエントランスで、埋め尽くさんばかりに白いバーサーカーが。
- クリス : 強そうだな。それはこのBOYのものと同じ奴ですか？
- GM : 赤い機体の量産機という感じですね。シオンの機体のように大幅な改良は加えられていません。最大の違いは遠隔でコントロールができることです。
- シオン : それって兵器としては大変優秀じゃねえのか。実はそっちの方がいいんじゃない？
- GM : バーサーカーが見えたと同時に、どこからかダーモット王子の声が聞こえます。「ようこそ、我がウェストリ王国へ。よくぞここまで来た。だが起動まで少し時間がかかる。これはミーティア起動前の余興だ。……堪能してくれたまえ」と言います。
- シオン : 「待っている、ダーモット。必ず僕たちは辿り着く！」
- GM : 「ああ、あの赤い機体を倒したのは貴様だったな。しかしここにいるオリジナルには勝てまい。虫は虫らしく地を這い回っていればよい」と、笑いながら消えていきます。そしてシオンにクエストをあげます。『ダーモットを倒す』。
- フリーデ : ……『世界を救う』のと『ダーモットを倒す』のはどっちが大変なんでしょうね。
(笑)
- レキ : ダーモットを倒す方が大変そうです。
- GM : 戦闘に入ります。
- ライゼル : ……ちなみに私のMPは残り5点です。
- シオン : ごめん、俺だって6点だ。
- フリーデ : MPはあるけど、HPは12点だな。
- クリス : ……ごめん、満タン。

■戦闘III VS 白いバーサーカー 6Lv相当モブ×6グループ■

[行動順] 行動値14 シオン
行動値12 クリス
行動値11 フリーデ、レキ
行動値6 ライゼル
行動値0 白バーサーカー

バーサーカーの手番になるまでもなく戦闘は終わりました。

アームドギアに乗って行動値14になったシオンと行動値11のフリーデの範囲攻撃が決まり、敵を一掃。

- GM : さっきのバーサーカーとの苦戦はなんだったんだってくらいに見事な連携で瞬殺しました。
- フリーデ : ふっ、と振り向いて「お見事でした、シオン様」と。
- シオン : 「フリーデもありがとう。ちょうど討ち漏らしたところを討ってくれたね」
- GM : 最後の機体は君の機体を見つめるかのように見ながら破壊されていきます。……奥には扉が見えます。

SCENE 6 マスターシーン

ライゼル：さあ、誰もいないシーンを演出するんだ！（←MPが残り少なく、マスターシーンで回復したい）

クリス：あれだ、クーがどっかちよろちよろ動いているシーンだ。

フリーデ：それアイキャッチじゃん。（笑）

GM：じゃ、マスターシーンです。――帝国軍艦の空中戦艦の艦橋にて、ヘルムード・ゾンバルト将軍が高らかに笑っています。

シオン：『ふっはははははは。見ろ、反乱軍など雑兵以下だ！』

GM：本当にそんなだよ。「ついにあの忌まわしきプリムローズに引導を渡す日が来たか！脆弱な武装だ、これで戦うつもりとは反乱軍という奴らは知識がなくて困る」――眼下には帝国と戦うプリムローズの戦士達があります。「期せずしてわしの栄達の礎となってくれるわけだ。げっへへへへ」

フリーデ：……マスターの悪役笑って、ほんっとうに上手いですよねー……。 （笑）

GM：ひととおり笑った後で鬼瓦のような顔をして「動力甲冑を全部出せ、ひとつ残らずだ！そして蹂躞しろ！」と言います。オペレーターが命令を確認後、空中タイプと地上タイプの全ゲバルトギアが降下していきます。

シオン/オペレーター：「オペレーターから動力甲冑パイロットへ。伝達します。命令は『蹂躞せよ』」

レキ/兵士A：「ヤー・ボール！」って奴ですね。

GM：プリムローズ基地では、その様子を見つめる整備士達があります。「また来たよ、今度はまた大隊だな」「これではいくら白い船でも保つまい。さっきの戦闘で既に動力部をやられているからな」「こんな時にあの坊主がいればなあ……」

シオン：帰ってくるよ、すぐ！（号泣）

GM：すると、整備士のおやっさんが弱音を吐いている兄ちゃんにボディブローを浴びせます。「そんな気の抜けた有様でどうするんだ！ようはケンカよ、最後に立っていた方が勝ちだ！ガキ共の帰る場所がなくなるじゃねえか。ここは踏ん張りどころだ、いくぞ野郎共！」

シオン：「おやっさん、目エ醒めました！どこまでもついていきます！」

GM：「だったらさっさと持ち場に行け！踏ん張るぞ！」

シオン：「了解しました！」

GM：「もう少しでホワイトスネイクからの補給が届く。……俺たちは負け戦をしているんじゃない、勝つためのいくさをしているんだ！」士気が戻った後でおやっさんは言いますね。「坊主達……保たせるから、帰ってこいよ！」

SCENE 7 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）

GM : 歩を進めていると、あなたは身に覚えのあるシャードの反応を感じます。

クリス : 「何かしら、このシャードの輝きは？」……って感じですね。

GM : 炎が燃えたぎるようなシャードの反応です。死んだはずの、父であり兄であるアインのシャードを一瞬感じました。

クリス : 「そんなばかな……アインは、父さんはあそこに今も眠っているはず……」って感じで。「シャードが反応しているということはまだ生きています？ それとも何かまた別の……」

GM : そこまで詳しくはわかりません。そして今のあなたはそれを確かめるような余裕のある状況ではありません。とにかく次へ次へと。

クリス : じゃ、レキに今のを伝えます。「レキさん、実は……」かくかくしかじかで。

レキ : 「いや、私は何も感じなかったが。もしかすると見守っているのかもな」……くらいしか言えないんだよな。

GM : そんなことを言っていると最後の扉が見えてきます。あなたが手をかざすと開きますね。奥の方には制御室らしきものが見える、というところでシーンを切ります。

SCENE 8 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）

- GM : ここはミーティアの制御室のようです。全ての壁が幾何学模様で覆われた巨大な部屋です。
- クリス : ラピュタだらピュタだ！（by『天空の城ラピュタ』）
- GM : 台座の上には、十数体の赤いバーサーカーに守られているダーモットがいます。「ふっははははは……。ようこそ、謁見の間に。余がウェストリ王国の神ダーモットである」
- ライゼル : やべー。デスフラグだったよ。
- レキ : 『神』って言われたらもう、殺すしかなくなっちゃう。
- GM : 「お主ら、亡命し媚びへつらっていた余をバカにしていたであろう。無能と認めていただろう！」
- フリーデ : それすら思っていなかったけどね。
- クリス : 実際、無能だしな。
- GM : 「だがお前らは騙されておったのだ。この男は10年前にこの場所で鬭争に巻き込まれて死んだ。だが奈落によって新しい生を受けたのだ。そう、神の座ミーティアを奈落のものにするためにな！」
- レキ : うわー。
- GM : ダーモットは中央の光が流れ込んでいるところにいるエイリアスに向かって「そう、全てはこのために！ この日のためにお前は存在した！ さあ、ミーティアを起動させるのだ！」と言います。命令を聞いたエイリアスは満面の笑みを浮かべて「わかりました」と指輪をはめた両手を台座に乗せます。そこで光がぱーっと走ると、ミーティアが動き出します。
- クリス : うーん、どう動いたもんかね……。
- シオン : 今はビジュアルシーンだからねえ。
- GM : 君たちの持っているシャードーシオンの場合はアームドギアーが、冷たく輝きます。シャードが驚いているようです。
- シオン : 「怯えている。僕のシャードが」
- GM : ダーモットはエイリアスの肩に手を当てます。すると、彼の手を通して彼女の体に奈落が染みこんでいきます。
- クリス : 「いけない！ 彼を阻止しなければ……」
- GM : ダーモットの体は、吸い込まれるように彼女の体に入っていきます。
- クリス : うげー。なんか見たくないな。自分と同じ顔をした奴にダーモットが吸い込まれていく。
- GM : ダーモットであったものが全て姿を消すと、ミーティアが振動します。そうしますとーフリーデさん。
- フリーデ : はい？
- GM : レーネから通信が来ます。「大変です、ミーティアが外に向けて攻撃を開始しています！」ーここでシーン終了です。
- レキ : して『います』！？
- クリス : シーンプレイヤーでしたが、動けませんでした。ここはバルスしかないかな。（by『天空の城ラピュタ』滅びの呪文）
- シオン : すごいや、ラピュタは本当にあったんだ！（by『天空の城ラピュタ』パズー）

SCENE 1 マスターシーン

- GM : ウィンカスター近郊プリムローズとの戦いは帝国軍の勝利で終わろうとしています。ブラングリュがあるといっても圧倒的な戦力にはかないません。防衛基地は相当な被害を被っています。帝国旗艦の中ではゾンバルト将軍が高笑いをしています。「はっはははは……圧倒的勝利という奴だな」
- フリーデ : (ぼそっ) 圧倒的ではないか、我が軍は。(by『機動戦士ガンダム』ギレン・ザビ)
- GM : 「貴様らの無駄な努力は認めてやる。だが我が軍の勝利は揺るぎない！ がっはははは」
- ライゼル : きっとこいつに攻撃がくるんだぞー。(笑)
- GM : その時、慌てた声がします。「将軍、西の方角から謎のエネルギー反応！」その言葉に全員が西を見ると、巨大な闇が渦巻いています。中央にダーモットの顔があります。
- ライゼル : 超級霸王電影弾！？(by『機動武闘伝Gガンダム』)(笑)
- GM : ゾンバルト将軍がそれを見て「何じゃ、あれは！？」と。
- シオン/オペレーター : 「将軍、計測できません、エネルギー値が……！」
- ライゼル/オペレーター : 「エネルギー、尚も増大中！」
- GM : 「逃げるなっ。我が軍はこんなところで逃げるわけにはいかんのだ！」と言いますが、示されたエネルギー増大値を見た将軍は「逃げろ！」と。
- フリーデ : 「撤退っ、いや転進だ！」(by『銀河英雄伝説』)
- GM : いや、「転進……いや、間に合わん、撤退だ！ 船を捨ててでも逃げろ！」
- シオン : うわやべっ、この将軍実は有能！？
- GM : 有能というより自分が死にたくないだけです。「だが貴様らはふんばれ」みたいな感じで、将軍はあっさりと脱出カプセルに入って高速の移動で去っていきます。
- シオン : へ、《ヘルモード》(パンツァーリッターの加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカルに出来る)……。
- GM : 暗闇の中央の顔から、声のようなものが聞こえます。「虫どもめ、墜ちろ！」
- クリス : 声にエコーがかかっているんだね。
- GM : 同時にミーティアから巨大な光線が放たれます。それは帝国もプリムローズも関係なく覆います。
- クリス : プリムローズもか。
- GM : 光が通り過ぎた後、帝国もプリムローズも関係なく9割が失われます。その余波はウィンカスターの町を半壊させるほどです。
- クリス : 整備のおじちゃんっ。
- GM : (あっさり) あ、生きてるよ。(笑)
- フリーデ : そういうものは最後まで引っ張らなきゃ！ 模範解答は『どうだろうねえ』ですよ！(笑)
- GM : 耳障りな声が響き渡ります。「ふはは、うはははは！ 余は神だ、世界は全て余のものだ！」——脱出カプセルの将軍は、それを見て「バケモノが！」と。
- クリス : 間に合ったのか、将軍。
- GM : 基地では「何だあれは！」「うろたえるな、状況を把握するんだ！」という声がむなしくこだまします。おやっさんも両足が消し飛ばされています。
- クリス : おやっさん！
- GM : 「おやっさん、大丈夫ですか？」「俺のことはいい、他の奴らの手当を……」
- フリーデ : ショック死してもおかしくないケガだと思うんだけど、おやっさん強いな。
- GM : 次に会う時は足がキャタピラに。(笑)

ライゼル：おやじタンクに！（笑）

GM：「畜生、何だったんだあいつらは！」と若い整備士はミーティアに目を向けますが、黒い闇がまわりを渦巻いているだけです。

SCENE 2 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）

GM : シーンプレイヤーはクリスさんです。

クリス : またかい。

GM : ここはミーティアですから。――先程、ダーモットはエイリアスの中に入り込みましたが、ダーモットの意思自体はクリスのエイリアスにはないようです。

ライゼル : ミーティアに乗り移ったな？

GM : さあどうでしょう。クリス、【理知】9のチェックしてください。

クリス : (ころころ) おっけー、楽勝。

GM : あなたは思い出しますが、このミーティアの活動をコントロールできるのは王家の血を引く者です。エイリアスがコントロールをしているからこそ、ミーティアは起動しています。

ライゼル : ということは、彼女を殺せばミーティアが暴走する？

GM : 指輪を奪ってあなたがコントロールすれば、止まるかもしれません。

相談した結果、シオンとクリスが加護を使ってエイリアスに肉薄し、まず指輪を奪うことに。

シオン : 「クリス、手を伸ばして！」とコクピットから手を伸ばして、《ヘルモード》（パシファリッターの加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカルに出来る）でクリスと共にエイリアスのところまでつっこむ。

クリス : 「シオン君、お願い！」と。ここは留め絵な感じで。

シオン : つっこんでいって、ブライトナイトをかぶせるように置く。その間にコクピットから俺とクリスが飛び降りてエイリアスを抑え込む。ここからが戦闘ターンだ。

GM : クリスのエイリアスはクリスと同じレベルですから、死ねば経験点が6点入ります。

クリス : おーっ。……いや、クリスは優しいからそんなことは考えていませんよ。

フリーデ : わたしなら何の気にもせずに殺しますけどね。(笑)

クリス : いやいや。プレイヤーはともかくとして、キャラクターはエイリアスでも殺すのに忍びないとは思っているんです。

シオン : シオンは何とか助けようという方向で。ダーモットに利用された可愛そうな子。

クリス : おお、さすが2人の間で揺れているだけある。

シオン : どうせだったら3人目も作ってしまえ！ 1人も2人も3人も一緒よ！

■戦闘IV VS 赤バーサーカー 6Lv相当モブ×5 + 2グループ、クリス（エイリアス）■

【行動順】 行動値12 シオン、クリス、クリス・キルシュ（エイリアス）

行動値11 フリーデ、レキ

行動値7 ライゼル

行動値0 赤バーサーカー

クリスのエイリアスは、クリス自身のデータをそのまま使用しています。ヒーローとヒロインが指輪を奪い返してミーティアの制御を取り戻し、残りの3人がバーサーカーの相手をする、というコンセプトで戦闘突入。

GM : では、シオンからいきましょう。

シオン : クリス・キルシュに羽交い締め。

GM : それは【反射】で対抗チェックしましょう。

シオン : いくぞー！ (ころころ) 14。

GM : (ころころ) 10。あなたは見事抑え込みました。次、エイリアスはシオンに対して《

アイスブリッド》（ブラックマジシャン1Lv特技。〈氷〉2D6ダメージ）を打ちます。
（ころころ）17。

シオン : (ころころ) 1点足りない。くれ。

GM : (ころころ) 7点。

シオン : は? かすり傷。

GM : 苦虫をかみつぶしたような顔をしますね。

ライゼル : え、恥じらいながら「いやあ、離して……」じゃないんだ? (笑)

GM : むしろ、「離せ」って感じですね。

クリス : ほほほほほ。クリスはそんな野蛮じゃなくってよ、偽物め。

GM : 次、クリスさんの番です。

クリス : 抑え込まれているんだよね? 彼女の腕をつかんで「静かにしなさい」って感じで指輪を外します。

GM : 【体力】チェックしてください。彼女も一応抵抗はするんで。

ライゼル : いや、それでも《声援》（ヴァグランツLv5特技。対象の判定の達成値を+1D6）はしておく! 怖いから。

GM : (ころころ) 9。

クリス : 怖いから言うなー。(ころころ) お、危ねかったー! 11。

ライゼル : な。

GM : 彼女の抵抗もむなしく2つの指輪を手に入れました。次、レキさん。

レキ : 普通に攻撃しまーす。《二刀流》（サムライLv2特技。命中判定を2度行い、任意の片方を採用できる）と《集中》（ファイターLv2特技。命中値+2）。(ころころ) 18
といって斬りました。

GM : 回避いきます。(ころころ) ください。

レキ : うい。(ころころ) 17の〈斬〉。1グループにですが。

GM : くらいました。ダメージはけっこうきているようですね。

フリーデ : 次、わたしガトリングガンで攻撃いきます。(ころころ) あ、クリティカル。

GM : (ころころ) えーと、それは[範囲:選択]だよな。

フリーデ : はい、範囲攻撃です。でも今《ディスチャージ》（ヴァルキリー1Lv特技。武器属性を〈雷〉にする）言い忘れちゃった。(ころころ) 低いなー。20点の〈殴〉です。

シオン : 〈殴〉20ってでかいよ。

クリス : 家政婦さんは強いな。

GM : エイリアスは視界に入らないのでダメージは届きませんが、バーサーカーは1体墜ちました。どうやら〈雷〉より効いているようです。

シオン : バージョンUPしたからMeでも何とかなってるよ。

フリーデ : でもいつ止まるかわからないですよ、ごしゅじんさま。(笑)

2ラウンド目。新たに無傷のバーサーカーが2グループ現れます。残りバーサーカーは5グループ。

クリスは奪った指輪を持ってミーティアの制御を試みます。シオンは行動を遅らせ、状況次第で行動できるように待機。

GM : 【意思】15の判定をしてください。

シオン : そこに《声援》（ヴァグランツLv5特技。対象の判定の達成値を+1D6）。俺、こっそり頑張っているな。

クリス : 10以上か。おりゃっ。(ころころ) 出たあああああつ。

GM : 制御できました。ミーティアは停止します。

フリーデ : バーサーカーは?

GM : バーサーカーは既に奈落に侵されているので、ミーティアの制御から外れて活動して

います。ですがもう増えることはないでしょう。次はシオン？

シオン : クリス・ダッシュが先。俺は0まで遅らせたから。

GM : では、エイリアスは「おのれっ」と、クリスに的を絞って魔法攻撃。

シオン : 状況的には俺が押さえつけてクリスから遮っているんですが。

GM : だからまあ、あなたに当たると思ってください。意思是彼女に向かっていますが...
... (ころころ) えーと、【魔導】16です。

シオン : (ころころ) くれー。

GM : ダメージ (ころころ) 6点。悲壮な表情で「離せえっ。それがなければ私の存在の意味が！」と。

クリス : ちょっと可哀想ですな。

シオン : 「存在意義？ 今君はここにいるじゃないか。存在しているよ！」

GM : そこで、なんだこいつは、みたいな顔を向けます。

クリス : そこでまた何か芽生えるかもしれないし。

シオン :え、今のフラグになるのか？

フリーデとレキの攻撃によりバーサーカーにダメージを与えるも墜とすには至らず。
行動値0で、遅らせていたシオンの手番です。

レキ : さ、口説いてください。もうフラグが1本立ってます。

ライゼル : 口説け口説け。エイリアスの方が従順だぞー。

GM : 従順というか、存在意義が揺らいでいるから与しやすいね。でも、感情移入しないで
殺すよりは遙かにマシでしょう。

シオン : だろ。やっぱ可哀想でさあ。

クリス : ちなみにクリスは離れているので2人のやり取りは聞こえない。さあ、好きにやっ
てくれたまえ。(笑)

ライゼル : 愛を囁いてみよう。『クリスたんハアハア』

クリス : それは跳び蹴りくらわせます。(笑)

シオン : 押さえつけた状態で「あれがなきゃ存在意義がないなんてバカなことを言うんじや
ないよ。君はここにいるじゃないか。生きているんだよ」

GM : 「黙れっ、お前に私の何がわかる！」

シオン : 「何もわかるわけなんてない。僕のことなんてわからないだろう。そんな簡単に人形
の運命なんて受け入れるな！ 流されるだけの運命なんて認めちゃだめだ、反逆
しろ！」——さ、これでクエスト完了。(笑)

ライゼル : 自分は簡単に運命に押し流されている。ここに会社に流されている人間もいるぞ。

GM : 彼女は君の言葉に妙に説得力を感じたようです。「な.....なんなんだ、あんたは！」
先程より力を感じない。

シオン : イベント戦闘、1ラウンド目終了、2本目のフラグが立ったはず。以降は次のラウン
ドで。(笑)

フリーデ : あと何本立てればいいんですか？

シオン : もう1、2本でいけるんちゃうかな。

フリーデ :いく気ですか？

レキ : 2つ越えるとルート確定しちゃって、他には入れないようになるのでは。(笑)

GM : 最後、残ったバーサーカー達5グループがクリスに攻撃をします。

レキ : まずは頑張って避けてください。

フリーデ : 失敗してもフォローするから。

シオン : 大丈夫だよクリス、クリスが死んでも代わりはできた。僕あの瞬間、クリスを忘れた
。自分でやってて思うんだけど、シオンてひどい男だなあ。(笑)

クリス : おい！

フリーデ : 目の前に障害があると、そっちに目がいっちゃうタイプですね。
クリス : ほほほほほ。またファイトの相手が増えたね。
GM : 攻撃いきまーす。まず1グループ目(ころころ)18の命中。
クリス : (ころころ)うん、ダメだね。
レキ : はい、《カバーリング》(ハンターLv1特技。他人をかばう)します。
GM : ダメージいきます。(ころころ)〈殴〉の20。次(ころころ)15。
クリス : 8で回避か。(ころころ)お、やった、成功! 偽物には負けられないさ!
GM : 3グループ目、命中(ころころ)21。
クリス : できるかー!(ころころ)うん、無理。
レキ : 《カバーリング》します。
GM : (ころころ)16の〈殴〉。最後、(ころころ)21。
クリス : だから6ゾロなんてどれだけ……(ころころ)。無理。
フリーデ : 《カバーリング》いきまーす。
GM : (ころころ)16。
フリーデ : ディフェンサーで減らします(ころっ)ってあまり減らなかった。クリスに覆い被さるようにして彼女を庇う。
クリス : フリーデさん!
GM : これで終わりです。次のラウンドですが、バーサーカーの数は増えません。攻撃どうぞ。シオンのイベント戦闘は一番最後でいいよね。

3R目。フリーデとレキはせっせと攻撃をし、クリスは仲間を回復させ、シオンは……クリス・ダッシュを口説いております。

GM : あなたに攻撃するのではなく、振りほどこうと試みます。【体力】の対決です。
クリス : ほっほっほ。懐柔されてきたな。
GM : (ころころ)あ、クリットした。
シオン : ーマスター、抵抗せずにそのまま手を離す。
GM : なにい! ?
フリーデ : 囲い込みにきてますよ。
GM : 彼女は不可解な表情をしますね。「わからない。一体お前は何なんだ!」
シオン : わざと彼女に背中を向けて、バーサーカーを攻撃します。ーえーと、マイナーアクションでセリフ。「僕はこれから君に背を向ける。何かあったらこの背中を切りつけな。避けないよ」
クリス : ヒーローモードになったぞー。
フリーデ : これはヒーローモードなのかなあ?
シオン : ギャルゲーモード……?
クリス : 真中君モードですな。(by『いちご100%』)
シオン : 攻撃いきまーす。(ころころ)あ、クリった。(笑)
GM : お前最悪だ!(ころころ)どうぞ、殴れよ。
シオン : 《猛攻》(ファイターLv1特技。ダメージに+1D6)発動で4Dね。
ライゼル : 更に《コンビネーション》(ヴァグランツ41Lv特技。自分以外のダメージロールに+2D6)乗せましょう。後方からの援護射撃がいきます。
シオン : これで6D。(ころころ)えーと、39の〈斬〉。
GM : ライゼルの援護もありバーサーカーは全て砕け散りました。戦闘フェイズは終了です。同時に彼女は携えていたダガーを抜き、あなたに刺しかかります。そして皮一枚当たった時に手を止めます。
ライゼル : 刺して、(手首を回転させつつ)ぐりってやるんじゃないの?(笑)
シオン : 振り向いて「ほら、君は自分で行動を止められるじゃないか」

GM : 「な、何故お前は避けない!? 貫けばお前は死ぬんだぞ!」

シオン : 「じゃあ、もう一度やってみるか。心臓はここだよ」

GM : 本人は何がなんだか分からない状態で、そこでひれ伏します。

クリス : じゃ、静かに近づいてダガーをすっと拾います。

シオン : 「君とクリスは別な人間だ。別な人間が同じ存在になろうとしていることが間違いないんだよ」

GM : 「そんなことを言われても……私……」と、表情がくしゃくしゃになります。

シオン : 「ほら、ちゃんと感情もある。大丈夫。僕たちと一緒に来ればもう一人の自分がちゃんと探せるよ」

クリス : ヒロインレベルが……セリフが思いつかねー! 今何か言うと嫌味になりそうな気がする。一力の抜けたクリスをそっと抱きしめます。

GM : そうするとだな、全員に18で【知覚】チェックしてもらおうか。

クリス : クリットしない限り無理ですな。(ころころ) いい目が出たと思ったのに無理でした。足りない。

フリーデ : (ころころ) 振り直します! (ころころ) だめ。

レキ : (ころころ) 15。

ライゼル : 15に《声援》(ヴァグランツLv5特技。対象の判定の達成値を+1D6)。MPはファミリアの分を使います!

クリス : D6で3以上か。

レキ : フィフティ・フィフティってことですね。(ころころ) 4。これで19。成功です。

GM : レキ、38の〈神〉ダメージの光線がクリスめがけてくる感覚がします。

シオン : ここでクリスが死んでも代わりがいるぞー。

クリス : そんなこと言うとは盾にするぞ、エイリアス。(笑)

フリーデ : さっきまで『別人だ』とか言っておきながら、代わりに使うって辺りがいいね。

クリス : 身替わりは身替わりです、別人扱いしていますよ。ここで散っという方が美しい思い出にねーライバルも減るしね。(笑)

レキ : その攻撃は《カバーリング》(ハンターLv1特技。他人をかばう)でかばいますよ。

GM : そうする間もなく、エイリアスが「危ない!」と反転してダメージを受けます。

ライゼル : きた。死んだ人には永遠に勝てない。

フリーデ : 誰の手を汚すことなく消えていったね。

GM : クリスは何がなんだか分からないままに……って感じです。背中から何かが流れてくる感覚がして、抱きかかえている手に血の感触が。

クリス : 「ちょっとあなた、どうしたの!? しっかりして!」みたいな感じで。

シオン : 「だ、大丈夫!」

GM : 攻撃をしてきたのは隠密タイプのバーサーカーみたいなものです。ちなみにこのままでは二撃目がすぐきます。何か投げるとかして倒していいですよ。

レキ : 「そこだ!」と、びしっと轟魔刀を投げつけます。

シオン : 轟魔刀ですか。小柄の方がいいんじゃないですか?

フリーデ : レキさん飛び道具持ってないんです。遠隔攻撃は《タケミカツチ》(サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える)しかありません。(笑)

GM : バーサーカーは判定の必要なく破壊されます。彼女は「本物にはなれなかったけれど……」と、力ない声であなたに言います。

クリス : 「本物とか偽物なんてないわ。今動いてくれたあなたは……あなたはあなたよ! 本当の人間にしかできない行動よ」

GM : 「そう、かな」みたいなことを言って、かすかに笑みを浮かべながら事切れていきます。

クリス : 「なんてこと……」と、泣きながら抱きしめる。

ライゼル : ここで《イドウン》(ホワイトメイジの加護。キャラクターを復活させる)。

クリス : ええー！？ わざわざライバルを増やすようなことはねー。(笑)

GM : 彼女の体は砂のように消えていきます。

シオン : 最後の消えていくその空に向かって「ありがとう。君は僕の大事な人を守ってくれた」と。

GM :で、その言葉を聞いてしまうわけだ、ソフィーが。(笑)

クリス : OKOK! ここで更に一押ししましょう。シオンに「シオン君、エイリアスに優しい言葉をかけてくれてありがとう」と。ちょっと背を向けながら言います。

シオン : では彼女の肩にそっと手をかけて.....。

クリス : ふふふふーっ。

フリーデ : ヒロインモード、解けるの早すぎ!(笑)

クリス : じゃ、肩に手を置かれたのに気づいて振り向いて、シオンの肩に顔を埋めます。か細い声で「ごめん、もう少しこのまま.....ちょっとこうさせていて」と。

シオン : じゃ、自然にクリスの体を抱き留めるよ。

GM :じゃ、それを見てやっぱりある人は顔を伏せるよ。(笑)

シオン : 結果的にエイリアス万々歳。

クリス : まあね。このためにいたようなものだ。よくやったエイリアス。(笑)

ライゼル : 顔を隠しながら、目の隙間から見ている。

GM : ミカがライゼルの指を開きながら「こういうところは見ておくものよ」と。(笑)

ライゼル : 「いや、これは見ないのも男の美学というものであり.....」

GM : 「そういうところがだらしのないのよ。ちゃんと後学のために見ておきなさい」

ライゼル : 16の小娘に『後学のために恋愛関係を見とけ』って言われた25歳。(笑)

GM : 「なら、あなたがそこまで甲斐性があるっていうの？」ってじーっと見つめますね。

レキ : 『あるのなら私を何とかしてみなさい』みたいな？

ライゼル :orz。(ライゼルのプレイヤー撃沈&一部のプレイヤー大爆笑)

フリーデ : どうしたの？ なんだかすごいダメージがいつてるよ？

GM : そこ、フラッシュバックしない。

レキ : よくわかりませんが、私は何かえぐってしまったんでしょうか？

ライゼル : ちょっと過去のトラウマを.....。

シオン : もっのすごくえぐったな。プレイヤーのトラウマを一撃。かなり厳しいよ。

ライゼル :余計なこといろいろ思い出したよ。

レキ : 知らぬこととはいえ失礼しました。毒針装備して3%くらいだと思ってつつこんだんですけど、どうやら急所に刺さったらしい。(笑)

クリス : ま、強く生きる。

SCENE 3 シーンプレイヤー：フリーデ（全員登場）

- GM : フリーデさん。起動は止まりましたから、レーネに報告をお願いします。
- フリーデ : あ、はい。「レーネ、聞こえますか？ こちらはとどこおりなく済みました。中央官制のコントロールは現在こちらで掌握しています」
- GM : そうすると「確かにミーティアからの攻撃はおさまりました。こちらの被害は甚大ですが、帝国軍もかなり打撃を受けたようです。現在はお互い戦闘ができない状況です」
- フリーデ : 「それは……。レーネ、戦闘が続かないほど被害状況は悪いのですか」
- GM : 「少なくともウィンカスターやゴールドベインも壊滅的な打撃を受けたようです」
- フリーデ : それには言葉もなく聞いています。
- GM : 「ミーティアの上空に浮かぶ黒い闇はまだ消えていません。早くミーティアを奈落から救ってください」
- シオン : ターモットを何とかしないと。
- フリーデ : 「わかりました。こちらのことは心配ありません。ミーティアの守護はわたしの役目、滞りなく済ませます。そしてすぐそちらに戻ります」
- GM : 「お願いします」と言って通信は切れます。
- フリーデ : で、いろいろやっているみんなに向かって、「ミーティアの起動は止まりましたが、未だ上空に奈落の気配は残っているようです。すぐに行って叩かなければなりません」と。
- シオン : じゃ、抱き留めたままクリスに声をかけるよ「クリス、もう少し頑張って」と。
- クリス : 無言で頷きます。
- シオン : 「何かあったら僕が支えるから、もう少し頑張るね」
- クリス : 「……うん」
- シオン : 「行こう、クリス。まだダーモットが残っている。彼女の悲しみを乗り越えなきゃ」
- クリス : 「うん……ありがとう、シオン君。私、頑張る」
- シオン : 「じゃ、フリーデ。行こう」
- フリーデ : 「はい」……あ、あと行く時に「クリス」って声をかけます。
- クリス : 「はい」
- フリーデ : 「紛い物として作られた存在である以上、『本物』に対して何らかの思い入れを抱くことは仕方がないことです。ですが最期に1つの個として認められて彼女は幸せだったと思います」
- クリス : 「そう思いますか、フリーデさん」
- フリーデ : 「……そう思っていると思いますよ」
- クリス : 「ありがとう……」
- シオン : ああ、でもそんなことを言われると俺もフリーデの肩ぽんと叩いて「でもフリーデ、君はちゃんと僕の家族だよ」って言わないといけないような気がする。
- フリーデ : それには寂しそうに微笑むだけで何も返さない。
- GM : では、行く前にソフィーがHPを回復してくれます。「私とミカはここに残ります。あなた達と一緒に外に出ても足手まといになるでしょう」
- クリス : そうだねー。
- GM : ミカは「そんなことないよ！」と。
- レキ : それに対しては「ミカ、お前はソフィーさんを守れ。それがプリムローズの課せられた今回の使命だ」
- GM : 「でもお……」って言う。
- クリス : おらライゼル、一言言え！

ライゼル：「頼んだよ」

GM：「そう言われると……。その代わり負けるんじゃないよ、みんな！」

レキ：「当たり前だ」

GM：「少なくともライゼル、あなたはトロくさいんだから。やられたりしないでよ」

ライゼル：「大丈夫」

GM：ぼそっと「あたしだっけ行きたいのに……」って聞こえないように言います。

シオン：このツンデレ女め！（笑）

クリス：ソフィーに向かって「ソフィーさん、待っていてくださいね」

GM：ソフィーは最後に「みんなを……私とみんなの友達をよろしく」と。

フリーデ：……。今のは敗北宣言！？（笑）

レキ：敗北宣言が出ました！ 無条件降伏です！

シオン：まったく気にしないシオンとしては、ぼんぼん。「じゃ、ソフィー、行ってくるよ」

GM：一瞬寂しそうな顔をしますが、笑顔で「無事を祈っています」

クリス：「大丈夫よ。あなたの大切な友達は私が守るから」

GM：ミカが元気な声で「死ぬんじゃないよー！」と。

ライゼル：「大丈夫、みんなで帰ってくるからー」

GM：「そういうあんたが一番心配なんだよー」……。そこでシーンを切ります。

シオン：はい。何ていうかまあ……。 （クリスに）ひどい女だ。

クリス：いやいやいや。何を言っているんです（勝ち誇り）。

ライゼル：既に勝利者の顔をしています。

レキ：発言する時にファイティングポーズがなくなっています。構える必要がなくなった。
（笑）

ライゼル：今までは『ソフィーが』って言われた瞬間に身構えていたのに。（笑）

SCENE 4 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）

- GM : フリーデの先導でミーティアの外に出ます。そこには無数の砲台がプリムローズの拠点となっている防衛基地の方角を示したままです。
- クリス : 惨状とかはこっちからは見えないよね。
- GM : 煙は見えます。あとちょっと地形変わっているかな。
- レキ : えぐれていると。
- クリス : 「何てひどいことを……」
- GM : そうすると、砲台の更に上に禍々しい黒い雲のようなものが見えます。中央にはダーモットの顔らしきものが。「虫どもが！ 神に逆らうか！」
- ライゼル : 貴様なんぞは紙で十分だ。
- シオン : 剣を向けて「神に憧れた卑小なる人間が！」
- GM : 「余は人間の器を借りていただけだ。余は神だ」と見下したような表情で言います。そしてクリスの方に目を向け、非常に憎々しい表情で言います。「またお前か」
- クリス : ーまた？
- GM : どうやら記憶が混在しているようです。「あの時と同じように邪魔をするか……」
- クリス : あの時？ お、おかーさんですか。
- フリーデ : 10年前のあの時。
- クリス : ああ。すっかり忘れていたよ。やべやべ。
- フリーデ : マスターは頑張って伏線張っているんだから、こっちもちゃんと拾わなきゃ！
- クリス : すいません、うっかり勝利に酔いしれていました。じゃ、「そうです。いくら神を名乗ろうとも、あなたは決して人間の想いに勝つことはできない！」
- GM : 「貴様の夫を殺し継承権が余に移ったかと思ったら立ちはだかりおって。あの時と同じようにもう一度殺してやるわ！」と無数の矢が君の方に向かいます。
- レキ : 《カバーリング》（ハンターLv1特技。他人をかばう）は？
- GM : 間に合いません。ですが、矢はクリスに届く前に止まっています。
- シオン : 何かが来た！
- クリス : 消えたあの人が。
- GM : 深紅の機体が突き刺さっています。
- クリス : 「あの機体は……！」って感じで。
- GM : ボロボロになった赤いゲバルトギアですね。「娘を……守れエー！」と言って、ぱーんと空中で爆発します。
- クリス : 「お父様ー！」って感じで。
- GM : 砕け散った噴煙の上でダーモットが言います。「ふっ、人形が。まだ余の邪魔をするか」ちなみに爆散はしましたがコクピットはまだ無事のようにです。（笑）
- クリス : まじで！？
- シオン : じゃ、「意思を持った者は人形って言わない！」って斬りかかる。
- GM : 戦闘に入ります。……すいません、この状況で悪いんですが、ずっとレキにクエストを渡すのを忘れていました。（笑）
- レキ : 何げに忘れられていました。いつ言おうかなーと思いながら。
- GM : とりあえず、『クリスを守る』としか言いようがないです。（笑）

■戦闘V VS ダーモット王子×11グループ■

[行動順] 行動値14 シオン
行動値12 クリス
行動値11 フリーデ、レキ
行動値10 ダーモット王子
行動値7 ライゼル

ラスト戦闘です。1R目のこちら側の攻撃は加護を使わない様子見の攻撃。
ダメージはあまり通りませんでした。
そしてダーモットの手番。シオンに対して単体攻撃をしかけてきます。

- GM : あなたに向かって「その機体……見飽きた！ 死ね」と攻撃をしかけます。（ころころ）あーあ、低い……命中25。
- シオン : は！？ はい皆さん、もう回避は諦めましょう。（PCの回避値は6～10）25！？ なめんな。
- クリス : 避けてもひょいって追隨してくる感じですね。
- シオン : （ころころ）無理でーす。ここに《トール》（ファイターの加護。ダメージロールに+10D6）&《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）？
- レキ : まだ様子見ます？ HPみんなMAXだからダメージ見てもいいかなあと思ったんですが。でも……。
- シオン : でもあまり出し惜しみをするとやばい気もする。
- フリーデ : いったいいと思うよ。
- レキ : 1回やりましょう。《カバーリング》（ハンターLv1特技。他人をかばう）します。また特攻しているよ、俺。
- シオン : その攻撃に《トール》（ファイターの加護。ダメージロールに+10D6）。
- フリーデ : いつもの奴です。
- GM : そうですか……（ころころ）58の〈神〉がレキさんに。
- レキ : ブレイクで《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）。
- GM : 《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）を《オーディン》（ブラックマジシャンの加護。加護ひとつをうち消す）で消します。
- クリス : それを《オーディン》（ブラックマジシャンの加護。加護ひとつをうち消す）で消す。
- GM : 《オーディン》（ブラックマジシャンの加護。加護ひとつをうち消す）を《オーディン》で消した？ それを更に《フレイ》（オラクルの加護。加護ひとつをコピーして使用）でコピーした《オーディン》で消す。
- クリス : 更にそれを《フレイ》の《オーディン》で消す。（笑）
- GM : そこまで消すかー！？
- レキ : 今回のクリスは気合いが入っていますので。
- GM : それを更に《フレイ》の《オーディン》で消す。
- ライゼル : 《ブラギ》（ヴァグランツの加護。加護ひとつを追加で使用可能にする）でクリスの《オーディン》を復活。

クリス : 復活した《オーディン》で消す。
GM :えーと.....結局58の〈神〉がくる？ いじめだ。ずばっとダメージが来ますね。
シオン : バカ言ってる！ 畳みかける時は一気に！
レキ : 顔の辺りに突っ込んでいって、ダメージを受けながらばしゅっと。
シオン : 「レキさん.....そんな.....それじゃあレキさんが保たないよ！」
レキ : で、ちゃんと着地して立ち上がるけど背中が焼けてる、みたいな感じで。
GM : こちらの思惑は外れたか、まあいい。そうすると、ダメージがはじめてまともにくらったので「ぐはあっ。くそ.....貴様らシャード持ちが！」と暴れ出します。
シオン : 虫からシャード持ちに格上げだね。
ライゼル : すごいよ、4段階ぐらい上がったよ。
レキ : 虫とシャード持ちの間には4段階しかないのか。(笑)

2 R目。クリスはコクピットから転がり出てきたアインに駆け寄る宣言。

クリス : マイナーアクションでアインに寄っていきますよ。
シオン : そして、メジャーアクションで回復？
クリス : 回復はしない。会話で済ませる。(笑)
GM : そうすると「ク、クリスカ.....？」
クリス : 「アイン。なんて無茶なことを」
シオン : 『アイン』じゃなくてここは『お兄さん』か『お兄ちゃん』か。
クリス : 親父のエイリアスなんだよ。父親でも兄にもできなくてね.....
GM : 「無様だな。今の私は.....」
クリス : 「そんなことないわ。今、全ての鎖を断ち切って私たちの前に立ってくれたじゃない」
GM : 「だが無様なりにも伝えられることはある。クリスよ、ダーモットを倒せ。そうすればミーティアに送られた奈落も完全に消える」
クリス : 「でも.....奈落はあまりにも強大すぎます」
GM : 「大丈夫だ、お前は私が守る。何に変えてもな」
クリス : (素に戻って)ということは、以後私が無茶をしても加護が飛んでくるというわけですね？(笑)
GM : ダーモットがそれを見て「まだ生きていたのか。貴様にできることなどもうない。そこで何もできずに死ぬ！」と闇の矢が彼に襲いかかります。
クリス : 「危ない！」と。
GM : 彼は笑みを浮かべます。「私の意思をかえることなどできんよ、この命に代えてもな！ たとえそれがいつわりの命であろうとも想いは伝わる。ダーモットを倒せ、クリス！」——まばゆい光が放たれ、君にシャードが託されます。
シオン : サクセサー！？ サ、サクセサーになりおりました！
クリス : おおー！ 今回はクリスのサクセスストーリーですか？(笑)
フリーデ : た、確かにその通りだ。
GM : アインは「未来を.....頼む」と言って倒れます。
クリス : 「アイ————ン！」
シオン : おっけー。
ライゼル : お姉さん。今、あなたのバックにふかふかのソファが見えます。(笑)
レキ : 売れっ子女優っぽくなった。
ライゼル : 俺にはドロンジョ様に見えるんだけどね。
クリス : まあ、今回は勝利者っていうことで。(笑)
GM : ダーモットが怯えた声を上げますよ。「ひいい、なんだこの光は！ まさか.....アルシャード！」その瞬間、君たちのシャードが共振を起こしてみんなに伝わります。

シオン : 「アイン。あなたの想い、受け取りました！」

GM : その時点であなた方全員にクエストを渡します。『奈落から世界を救う』

クリス : うわー、話がでかくなったよー！

ライゼル : 元々『世界を救う』があった俺はビミョー。

GM : クリスはこの時点で1個追加の加護を得ることができます。《ニヨルド》（加護。〈神〉10D6ダメージ）です。

クリス : ということは加護が4つになるということですか。わーい。

シオン : 《ニヨルド》は使い勝手がとても難しい。

フリーデ : 使えるうちに使っちゃえ。

クリス : じゃ、アインの光を受けてクリスが光り輝いている間に《ニヨルド》。ちゃっちゃとやっちゃいますか。

GM : どうぞー。くれ。

クリス : さて.....何て言ってぶつけましようかね。

ライゼル : 『私の元にひざまづくがいい！』

クリス : いやいや。「哀れな者よ.....。自分のあるべきところに帰りなさい！」（ごろごろ）40の〈神〉ダメージ。どういう攻撃でしょう、まさか目からビームじゃないと思うんだけど。

フリーデ : 手をかざすと天から振ってくる、とか。

GM : 不思議な力と共にミーティアの砲台から一筋の光が放たれ、ダーモットの体を貫きます。砲台はそれで砕けますが、激しいダメージがいったようです。「おのれアルシャード、おのれサクセサー！ 貴様ら、二度とこの世界に転生できぬダメージを与え消し去ってくれるわ」

クリス : ほっほっほっほ。 (勝ち誇りっ)

シオン : そこで笑うから.....。

フリーデ : だからヒロインモードが解けるの早すぎるって！ (笑)

GM : ダーモットの姿がみるみる変わっていきます。中央にダーモットの顔がはりついた黒い巨人みたいな。(と、シナリオ内の挿絵を見せる)

シオン : カッコ悪っ。

GM : 拡散して力が一気に凝縮された闇の塊のようなものです。「貴様らだけは許さぬー！」

シオン : ここからが本当の勝負です。

ここでクリスが《フリッグの予知》で「ダーモットの持っている現在の残り加護を知りたい」と宣言。

相手の加護が残り少ないことが露呈したため、加護を惜しまず一気に畳みかかるとにしました。

全体攻撃《グラビティブラスト》に《ヘイムダル》を乗せて仕掛けてくるダーモット。

これだけで実に全員に51点ずつのダメージです。この攻撃を普通に受けるとレキは死亡、他はブレイク。

この攻撃のうちクリスへくる分にシオンが《トール》をかけ、レキがそれを《カバーリング》＋《タケミカヅチ》。

これでクリスへの攻撃は回避。死んだレキはクリスの加護で復活させるという寸法です。

GM : 全員、51ダメージくらってください。

フリーデ : それもらうとブレイクです。

ライゼル : 俺もブレイク。.....どうせブレイクなら《自己犠牲》(ヴァグランツLv6特技。対象の受けた実ダメージのうち、任意の点数を代わりに受ける) しょうか。

シオン : 俺か、《カバーリング》(ハンターLv1特技。他人をかばう) が残っているフリーデ

かどっちかのダメージを引き受けてくれるとかなりでかい。《ティール》（ハンターの加護。自分の受ける実ダメージを0にする）あるからフリーデか。

ライゼル：じゃ、今度ばかりはばっとフリーデさんの前に立ち塞がろう。「この船を管制できるのは、今はあなただけです！」

フリーデ：「……今日は無茶ばかりなさいますね」

ライゼル：「たまにはいいじゃないですか」

シオン：俺はライゼルに礼を言わなきゃ。「ありがとうライゼル、家族を救ってくれて！」

ライゼル：「シオン、今度君が我々を守ってくれ」

シオン：「それに応えるよ！」と、さっきのダメージでブレイクして、勾玉をはずしてびしっ
と入れます。ブレイカー。

GM：プラス、レキさんには42点。重力波のようなものがあなたに襲いかかります。

レキ：足して93ですね。それに《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）。「そんなもの、王女に当てさせるわけにはいかん！」……で、死亡です。

クリス：「レキサーーん！」——《イドウン》（ホワイトメイジの加護。キャラクター人を復活させる）いきますよー。「もう誰も死なせはしない！」って感じで。

ライゼル：あなたは私の騎士なんだから、そんなことで死んじゃダメ。ちゃんと私を守りなさい！

レキ：それは死者を鞭打っているような。（笑）

GM：かなり今のでダメージをくらったようで、歪んだ表情になります。「おのれおのれおのれー！」

シオン：まずは親父さん達の一撃でガトリング！そしてブライトナイトの一撃！

GM：「バカな、クエスターごときにこの力などありえん！」

レキ：レキは空中で自分の轟魔刀を投げます。

シオン：それを空中で俺がコクピットから出た状態で受け取って、真っ向から。

ライゼル：そこにキャノン砲の玉がぽとんぽとんと当たる。（笑）

GM：それは全てダメージとして降り注ぎます。「バカな、神である私が死ぬわけが……！だ、だか貴様だけは……貴様だけは！」と、一度吸収したかと思うと、暴走して全てのダメージを飲み込もうとします。で、爆散。

シオン：俺も一緒に爆散。

フリーデ：それを静かに見上げて「神を名乗る奈落の者よ、あなたのような存在にシオン様は倒すことはできません。シオン様は……わたしたちにとって闇を払う光なのだから」——《イドウン》（ホワイトメイジの加護。キャラクター人を復活させる）。

GM：そうすると、何かに守られているかのように、コクピットハッチが開いているのにブライトナイトごと爆炎の中から君が剣を構えた状態で出てきます。

フリーデ：それを迎えるような感じで。

GM：最後に、爆散する中に残留思念が囁きます。「嫌だ……もう一度死ぬのは嫌だ……」ミーティアも奈落の力も消えていきますね。

シオン：じゃ、そこで剣をふんっと振って「涅槃からやりなおしな！」（笑）

クリス：涅槃はっ、涅槃は違うー！

フリーデ：格ゲーみたいなセリフですね。

GM：無事に帰還する、と言うところでシーンを切ります。

シオン：結果的にすげーヒーローくさいダイス目になったな。

クリス：インチキなくらいね。

SCENE 1 マスターシーン

GM : ミーティアの破壊的な攻撃力により、帝国軍とプリムローズの戦いは両軍の疲弊によりなし崩しに終わりました。特に帝国軍のダメージはきわめて深刻。ですが今回は未知なる兵器であり、指揮官はそれほどの罰は受けないかもです。

シオン : 更迭はなかったか。

GM : それはわからないけどね。また、プリムローズが基地を占領し、取り返しに来た一個師団がほぼ壊滅状態に陥ったことが、各地の反乱活動に活気を与えているようです。

シオン : 気がつくとちょっと偉い人。

GM : 最終的にはプリムローズと帝国軍の対決は痛み分けに終わりましたが、そういう意味では何とか勝ちを収めたというべきでしょう。この後、帝国の軍事的介入は急激に減退することになります。帝国軍は部隊の再編に手間取り、プリムローズには回復の猶予が与えられます。これはこの地域におけるパワーバランスの変化を意味します。

レキ : 結果的にそうなったと。

GM : 結果的に暴走した一撃がまあ、悪いことだけじゃなかったという。

SCENE 2 クリス（全員登場）

- GM : ダーモットを倒しミーティアの暴走は停止しました。もう、この遺跡はあなたの意思以外で動くことはありません。言ってしまえばあなた一人の意思で世界を滅ぼすこともできる。
- クリス : うわっ。ミーティアってそんなでかいの!?
- シオン : イエッサー!
- レキ : ここから帝国領に向かって撃てば、かなりとんでもないことになるのではなからうかと思えます。
- クリス : 取り戻したはいけれど荷が重いなあ。なんてこったい。「一体、これからどうすればいいのでしょうか……」
- シオン : 「クリス、『どうすればいい』じゃない。どうしたいんだい」
- クリス : 「私は、力で支配するようなことはしたくはないんです」
- シオン : 「じゃ、簡単だよ。遺跡は封印すればいいんだ。起動できたんだから封印もできるだろう。方法はこれから探せばいいんだよ」
- クリス : 「そうね。……何だか、シオン君が言うことができそうな気がしてくる」
- フリーデ : じゃ、そこで「クリス」と声をかけます。
- クリス : 「はいっ、フリーデさん」
- フリーデ : 「わたしはミーティアの制御プログラムです。そしてあなたは今や、ミーティアを制御するための2つの指輪を手に入れた正統なる後継者です。わたしはあなたに従わなければなりません」
- クリス : 「はい」
- フリーデ : 「その上でお聞きしたいと思えます。——この遺跡をどうなさいますか？」
- ライゼル : (ぼそっと) 煮て焼く。
- シオン : だから我慢しなって!
- クリス : 「この遺跡は……このような恐ろしいものはなくなってしまうと思います」
- フリーデ : そこはちょっと寂しそうにしますが、「はい」と。
- クリス : 「でも、この力が恐ろしいことではなく、これから希望の光となるような使い方がみつければと……今はしばし、その道が見つかるまで眠りについてもらえればと思います」
- フリーデ : 「はい。……貴方はそうおっしゃるだろうと思いました。わたしはプログラムとして作られたヴァルキリーですが、今は少し……齟齬があるようです。主人が言うままの行動が取れるとは思えません。——だから、クリス」
- クリス : 「はい」
- フリーデ : 「あなたなら安心です。どうかよろしくお願ひします」って頭を下げます。
- クリス : ——「フリーザさん……」(笑)
- シオン : 『(某フリーザ口調で) 私は神だ!』(笑)
- レキ : 『(某フリーザ口調で) その通りですよ、クリスさん。ほっほっほ』(笑)
- フリーデ : ち、違うよっ、わたしそんなじゃないよ!?(笑)
- クリス : ごめん、今の本当に間違えた!
- ライゼル : なんてあんたそんなに器用なんだい。あなたの中で今何かのリミッターが解除されているでしょう!?
- シオン : それ神レベルの失敗だよ。神がかっているよー!
- クリス : すいません、調子こいてました。(気を取り直して)「フリーデさん……」
- ライゼル : 駄目だ、フリーザに聞こえる。(笑)
- シオン : そこ!

クリス : 「フリーデさん、私にはまだまだわからないことがたくさんあります。これからもずっと一緒にいてください。これは主人としてではなく、家族としてのお願いです」

シオン : あれ、『家族』？ 今の、しょ、所有者宣言？ (笑)

フリーデ : んー、それはちょっと答えあぐねるかなあ。

クリス : あ、じゃ、家族としてというよりはシオン君の友達として。

フリーデ : いや、そこはいいんだけどね。それには返事をしないで顔を上げて、ちょっと微笑むくらいにしておきます。

GM : そんなことをしていると、グランブリュの動力が復旧したようで、こちらの方に迎えに来たようです。

フリーデ : 「レーネが来たようです。行きましょう」

GM : グランブリュに無事に乗って甲板から眺めると、あなたの視界にはミーティアの遺跡がかすかに見えますーというところでシーンをカットします。

SCENE 3 シーンプレイヤー：シオン

- GM : 基地に戻りますが、君たちの帰る場所だった防衛基地は全壊に限りなく近い状況です。
- シオン : そこに意気揚々とおやっさん達に報告に行くんです。「おやっさーん！」
- GM : そうすると、おやっさんは何とか……。
- レキ : 下半身がキャタピラに。(笑)
- GM : いや、優秀なメディックやGM社から派遣されたクラリスたちの手により、重症患者は治療を受けています。親父さんも、足はどうにもなりませんでしたが傷口は塞がっています。足を布で隠して車いすに乗った状態です。
- クリス : クラリス、懐かしいねー。
- シオン : 「おやっさん、あなたたちが用意してくれたガトリングガンが役に立ちました！ また整備手伝ってください」
- GM : と、「おお、無事か。俺らも無事なやつは無事だよ」と。
- シオン : 「おやっさん、足は……」
- GM : 「これか。ちょっとヘマしちまってな。俺なんかまだマシさ。カイとシンがな……」
- シオン : 「カ、カイさんとシンさんが……」
- レキ : 死んでから名前がついてる。(笑)
- シオン : 横には整備帽だけがちょこっと乗ってます。「奴ら、あの攻撃に巻き込まれて……。当たり前にいた奴らが消えていくなんてな。だが、生きているやつは生きているなりにやることやらねえとな。お前だって落ち込む必要はないぞ。奴らは無駄に死んだんじゃねえ、俺たちに未来を託して死んでったんだ」
- クリス : いいセリフや。
- シオン : 「おやっさん……カイさんとシンさんの分まで、僕、頑張ります」
- GM : 「それでいい。それが奴らの一番の手向けになる。それが生き残った俺たちの使命だ」
- シオン : 「おやっさん、僕は泣きません。あの人たちの分まで笑います！」
- GM : 「そうだ、男はそれでいい！」
- シオン : 「絶対下なんか向きません、前だけ見ます！」と言いつつ泣いておく。
- クリス : 青春だね。いいねー。
- シオン : ぐっ、ってそのまま涙流したまま、夕日見てごまかす。上を見て。前を見て。
- レキ : 泣いている顔は見せないように。

SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ

- GM : あなたは指輪の奪還とソフィーの救出について、ハンズに報告に行く義務があります。
- レキ : (しばらく考えてから)あの、このキャンペーンはここで終わりですか？ 続きがあるのか今不安になっているんですけど。(笑)
- シオン : 俺もこれで終わりだとすげー美しくねえか、とかちょっと思った。(笑)
- GM : もう1話残っています。
- シオン : キレイな終わりだから、このまま終わっちゃってもいいかなと。
- GM : ここで終われば気持ちいいよね、って俺もシナリオソース見て思ったんだけどね。まだまだ終わらんよ！
- レキ : 続くのであれば、ハンズに報告をする前にクリスのところに行きます。
- クリス : 「あ、レキさん」
- レキ : 「クリス.....いや、王女」
- フリーデ : 2人きりモードだ。
- レキ : いや、正統な後継者となった時点で、誰彼構わずもうレキはクリスには『王女』で。
- クリス : 王女と呼ばれるのもまだしっくりない感じですが。
- レキ : 「あなたは今後、どのような王国を作りたいですか？」
- クリス : 「私は全ての人間が誰の奴隷でもない、そういう世界を作りたいと思うのです。甘いことかもしれませんが、そしてその道のりは遠いかもしれませんが.....」
- レキ : 「では、帝国を許すわけにはいかないと私は思います。帝国のはびこっている中、あなたの理想とする王国は作ることができないと考えます」
- シオン : き、騎士だ.....。
- クリス : 「そう考えますか。私は帝国だからといって全てを滅ぼすべきだとは思わないんです。でも今の帝国がある限り、私の思う世界は訪れないこともわかっています。やはり帝国とはこれからも戦って行かねばならないのでしょうか」
- レキ : 「帝国の行動を阻止するという意思があるのなら、私はあなたの剣となり、帝国と戦うことにしましょう。.....そして、今後も私はプリムローズに身を置いて戦いたいと思います。どうでしょうか」
- クリス : あー、そっか。
- レキ : ここ、大事なんです。
- フリーデ : 確かにそれをどうにかしておかないと、ハンズとしゃべれないね。
- レキ : そう。話す時に『私はプリムローズを辞めて王女についていきます』って言わなきゃいけない。
- クリス : 「そうですね。私も同じことを考えていました。私もプリムローズに残り、これから様々なものを見ていかなければと思います」
- GM : そんな話をしていると、「クリス王女」と呼びかけられます。「あなたにお客様です」と。
- クリス : 「それでは、この話はまた後で」と。
- レキ : では、ハンズに報告に行きましょう。
- GM : モニターのハンズは嬉しいという表情というよりはお疲れさまという感じです。「報告は聞いたよ。ウェストリの姫君も見つけれられたようだな。まさか身近にいたとはな」
- レキ : 「黙っていてすいませんでした」
- GM : 「いや、当然だろう。もし早くにそのことを報告していたら、ひょっとしたら私は彼女の立場を利用しているかもしれない。反乱軍のリーダーといえどズルい男だかな。」

そうそう、妹を救ってくれたようだな。これはリーダーとしてではなく、兄として礼を言わせてもらう」

レキ : 「仲間達全員の、特にシオンの活躍があったからです」

GM : 「そうか。彼には大変な借りができたな。――レキ、君は今までプリムローズのために本当に頑張ってくれた。礼を言う」

レキ : 「いえ、そんな」

GM : 「これ以上、君を私たちの元に縛るということとはできない。ウェストリ騎士団に戻ってもいいんだぞ。それが本来の君のあるべき立場であり、職務だ」

シオン :卑怯.....。ひでーよ、この兄妹。

フリーデ : このタイミングでそれ言うか、って感じですね。

レキ : 「確かに王女も見つかり、ウェストリの再建をできるようになりました。しかし世界の情勢、特に帝国の動きから考えるに、すぐに建国はできないと思います。ウェストリだけでなくこの世界全ての平和のためを考えて、私はまだプリムローズに残り活動を続けようと思います」

GM : しばらく無言で君の答えを聞いていた彼は「すまない。これからもよろしく頼む、レキ」と短く礼を言いますね。

レキ : 「こちらこそ、ハンス。ただ、これは王女の意味でもあるのです」――もう仕えていくんですから。自分だけの意志で言っているわけじゃないです。

クリス : あれー？ あれー？

シオン : あの純粹に尊敬できたレキがどんどん汚れていく。

ライゼル : レキみたいな奴がコロニー落とすんだぜー。(笑)

SCENE 5 シーンプレイヤー：ライゼル

GM : 成功はしました。世界は救ったわけです。あなたは会社人なので報告をしなければなりません。

ライゼル : パトリック・ウォンに報告します。

GM : パトリック・ウォンはいつもの調子で「お、君か。話は聞いたよ。無事にミッションをこなしたらいいじゃないか。さすがは見込んだ男だ」

ライゼル : 「ええ、無事にミッションはこなしました。……が、犠牲があまりにも大きいので素直に喜べません」

GM : 「確かに、戦争というものは無駄な命を奪っていくものだな。だが君はその戦火を更に広げることを食い止めたのだ。むしろ誇るべきところだよ」

ライゼル : 「それはそうですけど……」 うーん。

GM : 「あ、そうそう。君に言ったよね。生き残ったら次の任務があるって。そのことなんだけど、とりあえずもうちょっとそこに残ってくれる？」

ライゼル : 「……本来の僕の別の任務を聞きたいな」

GM : 「いや、生き残ったらやっぱりそこに残ってもらおうと思ってただけだよ。帝国は部隊再建で手間取るだろうしジール君は走り回ってくれているから、君はそこで休暇みたいな形になるのかな」

ライゼル : 代替の人材が見つからなかったな、と思っているよ。

GM : 「君は接着剤だし。むしろ君は復興の時ほど効果を発揮するんじゃないかな。よろしくね」

ライゼル : 「お願いが一つだけ。――連絡は密にお願いします」

GM : もう消えています。

シオン : ツーツーツー。

ライゼル : クーちゃんが、俺の足元を舐めてまるで慰めてくれるかのように。メールだけ送っておく。『連絡は密に取りましょう』

フリーデ : 『ほう・れん・そう』だね。(笑)

クリス : で、落ち込んでいるところにミカが、やっほーって感じで来るわけですね。

GM : ミカが「ライゼルー！」と駆け寄ってきます。

ライゼル : じゃ、背伸びをして「……ふう。基地の復興作業に行きますか」

GM : 「なんかお引越しみたいだよ？ ウェストリにプリムローズの拠点を移すみたいな話が噂で広がっているみたいだしね」

ライゼル : 「成程。そこまで話は進んでいるんですね。じゃあ話は早い。さっそく準備に取りかかりましょう」

GM : 「そうだね、これから忙しくなるね。これからもよろしくねっ」と、ぽーんと軽く叩きます。

ライゼル : 「こ……『これから』!？」(笑)

クリス : 美味しいぞー。

フリーデ : ライゼルさんだ、ライゼルさんのシーンだ！

シオン : 一服の清涼剤の役割。

SCENE 6 シーンプレイヤー：フリーデ

- GM : ちょっと時間軸を戻しますが、戦闘を終えたあなたはグランブリュの機関室にレーネといいます。
- フリーデ : はい。まあ、いろいろやらなきゃいけないこともあるでしょうし。
- GM : 「ミーティアの奈落の浸食はなくなったようですね」
- フリーデ : 「はい」
- GM : 「わたしはこれからミーティアの遺跡に戻り、本来の役割に戻ります。ミーティアの制御プログラムとして修復及びメンテなどをします。フリーデ、あなたも来ますよね」
- フリーデ : 「……はい」
- シオン : フリーデ、行っちゃやだあ〜。(笑)
- GM : 「本来の任務に戻り、王族であるクリス様に従うのが私たちの役割です」
- フリーデ : 「はい」
- GM : 「あなたはまだ完全にプログラムが復旧していませんし、わたしにもわからない部分もあるのですが、外部から手を加えられたような部分もあります。これからの復旧作業に支障をきたさないよう、これからもよろしくお願いします」
- フリーデ : 「……わかっています。この遺跡がこの世界にいかに力を持つか、今回の件で嫌と言うほど知りましたから」
- GM : 「では、今後ともよろしくお願いします」
- フリーデ : 「ええ……」
- GM : ……で、ここでシーンを切ります。
- フリーデ : あ、クリスをちょっとつつこうかなーと思っていたんですけど、行ってもいいですか？ そうでなくても今日は出番が多くて大変そうだけど。(笑)
- クリス : うわー、つつかれるよー！ 怖いよ怖いよー。
- フリーデ : レーネと別れてこのままクリスのところに行く、でいいですか？
- GM : いいですよ。彼女はブラングリュの自分の部屋にいます。
- クリス : 「あらフリーデさん、どうしたんですか」
- フリーデ : 「クリス。わたしとレーネはミーティアに戻ることにいたしました。やらなければならないことが残っておりますので」
- クリス : 「え、戻ってしまうんですか？」と。
- フリーデ : 「ええ、それがわたしの役割ですから」と言ってから、「これは言おうかどうか少し迷ったのですが……」
- クリス : 「はい」
- フリーデ : クリスを見て「クリス。シオン様をよろしくお願いします」(笑)
- シオン : (硬直)
- クリス : え。「フリーデさん、何を言うんですか？」
- フリーデ : 「シオン様は幼い頃に母君を亡くされ、先の戦いでマーカス様……父君を亡くされました。今、あの方には家族と呼べる方がおりません」
- クリス : 「そんな……だって、フリーデさんはシオン君の家族じゃないですか」
- フリーデ : それを言われると、いつもの表情で「それはシオン様の錯覚です。シオン様はお寂しくていらっしゃるのです」
- シオン : ……！(←よく見えませんでしたけど……のたうってた？)
- クリス : えっ……。
- GM : そんなことはないぞー。表情を見れば寂しいそうにしているのがわかるぞー。
- フリーデ : 「最近のシオン様は無理がすぎます。どうかクリス、あなたがシオン様を守ってくだ

さい」と、そのまま頭を下げます。

クリス : 「フリーデさん、顔を上げてください。……私も、シオン君はとても大切な人です」

フリーデ : 「はい」

シオン : …… ! (←何か言いたいらしい? よくわかんない動きをしています)

クリス : 「私もシオン君を守りたいと思います。でも……でもシオン君はきっと、その時はフリーデさんも一緒にいてほしいと思うはずです。そんな寂しいこと言わないでください」

フリーデ : それにはちょっと目を伏せて「わたしは機械人形。生命の輪からは外れた存在です。——その言葉だけでとても嬉しかったです。クリス、どうもありがとう」

クリス : うわー!

フリーデ : で、そのままばたんて戸を閉めて出ていきます。

クリス : なんかフラグが! フラグが立ったー!

ライゼル : シオン君……予約席から専用席に変わったって感じだね。(笑)

SCENE 7 シーンプレイヤー：クリス

- GM : 前線基地に戻ってきたあなたをウェストリの王国の人達が待っています。その中から一人の男が前に出てきます。「お待ちしておりました、姫君……いえ、王女」
- クリス : えっ。「あなたは？」
- GM : 「失礼、申し遅れました。私の名はグレゴリー・ダーニング。古くからウェストリに縁のある者です」——（ルールブックの挿絵を見せつつ）参照。知謀にたけたヤな奴です。
- クリス : （ルールブックを見つつ）現在も領土を維持している伯爵ですか。
- GM : なぜ彼がここにいるかという、彼の治めていたウィンカスターも大打撃を受け、彼には新しい力……つまりあなたが必要なのです。ただ、それはあなたにはわからない。
- シオン : クリスはまだ汚れちゃだめだよ。
- GM : 「王位継承権第一位であらせられるあなた様がお戻りになられたのであれば、我らは民として忠誠を誓う所存でございます」と。そうすると、皆がざっとあなたの元にひれ伏します。
- フリーデ : パフォーマンス性ばっちりですね。レキより自分たちを印象づけたいんでしょうね。
- クリス : とりあえず、ここでふんぞり返るわけにはいかないの、「そんな、やめてください。顔を上げてください！」と。
- GM : 「いえ、あなた様に仕える忠誠の心と受け取ってください」
- クリス : 「忠誠を示すというのなら、跪くのではなく、これからの行動で」
- GM : 「さすが、気高きウェストリの第一王位継承者。私はあなたの剣となり盾となり、そして杖となり、これからも忠誠を誓いましょう」
- クリス : 「これから一緒に頑張りましょうね」と純真なほほえみで言うわけですよ。
- GM : そうすると右手を挙げて「それもさることながら、既にウェストリ復興のための準備をさせていただきました」と技術士が次々と現れ、シオンの機体を検査しはじめます。
- クリス : は！？
- シオン : シオンはその頃おっちゃん達と話しているからいないんです。
- クリス : 「な、何をするんですか！ シオン君の機体には触らないでください！」
- GM : 「プリムローズからの許可をとっています」
- クリス : ええー。
- GM : その表情を見て、グレゴリーは言いますね。「あなたの気持ちは察しますがこれは戦です。向こうにはゲバルトギアという機動兵器があります。こちらも力を蓄えなければなりません。どうかその意図を汲んで下さい」
- クリス : 「わかりました。私からこの件に関しては何も言うことはできません。ただ一つ、この機体に触る時は必ずシオン君の立ち合いの元に行ってください」
- GM : そうすると、「クリスさん、呼んで……。すいません、失礼しましたッ！」（笑）
- クリス : 「いえいえ。どうしたんですか？ そんな驚かないでください」
- レキ : 驚きますわな。
- GM : 「い、いいのでしょうか……あちらの方で呼んでいる方がいるので……」
- クリス : 「わかりました、今参ります。それではグレゴリー、さん。何かありましたらレキさんを通して伝えますので……」と言って去っていきます。
- GM : そんな感じで呼ばれていった先には見慣れた人が。ただし騎士の鎧を着ています。
- クリス : またか。
- GM : ゲイル・ヴァルサーです。

クリス : 「ゲイルさん。どうしたんですか。その姿は」 (笑)

GM : 「とりあえず、形式上なんで……姫さん、悪く思わんでくれよ」と、正式な型で「私は一介の海賊から騎士の隊長として貴女に剣を戻します。今後とも、私を剣としてお使い下さい」と言った後で「……と、まあ、堅苦しいことはこれくらいにしておいてさー」

クリス : 和むねえ。

GM : 「レキの野郎も堅苦しいことを言っただろうし、グレゴリーと嫌な展開もあつただろうし、気ィ抜けや。いきなりしゃちほこぼる必要はねえよ」

レキ : そこに通りがかかっていいですか？ (笑)

GM : いいよー。

レキ : 「お、ゲイル」

GM : 「レキ！ どうだ、久しぶりに着てみたんだが、俺の格好はこっちの方が落ち着くだろう」――浮いています。(笑)

レキ : 「いや……海賊の時のの方がお前らしかったぞ」

GM : 「そんなことばかり言っていると、お前そのうちグレゴリーみたいなオッサンになるぞ？」

レキ : 「ゲイル……。言っただけいいことと悪いことが！」 (笑)

クリス : ああああああ。「レキさんっ、レキさん押さえてください〜」

GM : 「傷が治ったばかりなんだから穏便にいこうや。どうだい、コレでも開けながら。積もる話もあるし、英雄譚でも聞かせてくれよ」

レキ : 「そうだな、いろいろ話すこともある。姫、ご一緒によろしいか」

クリス : 「レキさんもどうぞ」

GM : 「キナ臭い臭いをグレゴリーが持ってきたことだしな。姫さんはグレゴリーの人格もよく知らないだろうし。あのキツネ親父、何考えていることやら」

クリス : 「キ、キツネ親父ですか……」

ライゼル : 量産型を大量に作り、一個師団を設け、更に元の機体であるシオンの機体の関節部分に爆薬とかを仕掛けるに決まっているじゃないか。

GM : そのままなし崩しに移動していく、でシーンを切ります。

SCENE 8 マスターシーン

GM : ミーティアの暴動も収まり、反乱軍と帝国の戦いも終息しました。ですが話は終わりません。ミーティアの奥底で何か異様な動きが.....。

クリス : うわー、奥底に何かあるのかよー。

GM : そして、串刺しになったはずのアインの姿がありません。

クリス : あっれー？

フリーデ : 百式のラストみたいになりましたね。(by『機動戦士Zガンダム』最終回)

シオン : そして、今週のコソっとしたものは.....。

GM : コソっとしたもの？ ミカがミーティアから帰るところで、中央制御室に何かの袋を見ました。「何だろうな、コレ」と持って帰りました。――以上です。

クリス : 巡り巡って～。

レキ : 果たしてシオンは回収できるのか！？

アルシャードリプレイ ブライト・ナイト6

<http://p.booklog.jp/book/53186>

著者：沢渡祥子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/swtr/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/53186>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/53186>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ